



公共施設再編計画 施設機能毎の実態課題のまとめと今後の方向性 (案)

2016 年度（第 1 回～第 4 回）の策定検討委員会の検討をもとに施設機能分類毎の「実態・課題」と「今後の方向性」についてとりまとめました。なお、今回の資料では「今後の方向性（取り組み時期別）」、「再編後の将来イメージ例（イラスト部分）」、「～こんな取り組みも始まっています～」を新たに追記しました。

■ 施設機能毎の実態と課題の見方

実態と課題については、施設の現状分析として、施設機能ごとの施設概要と 6 つのポイントに着目して実態・課題を整理しています。また、これらの整理をもとに、4 つの視点から分析を加えています。

▼ 機能毎の実態と課題は次のパーツで作成されています。

施設概要

分類された施設機能の対象施設を一覧で掲載しています。各項目の説明は以下のとおり。

	説明
地域	施設が配置されている地域。 ※都市マスタープラン 10 地域に準ずる。ただし、一部を除く。
複合	当該施設を含む複合施設。「◎」は当該施設が複合施設における主たる施設であることを指し、複合施設等には当該施設以外の複合施設を記載している。「○」は主たる施設の中に複合されている施設であることを指し、備考には複合施設の主たる施設を記載している。
施設名	当該施設の名称。 ※複数棟から構成されている施設は代表施設名称として 1 つの名称に統一している。
面積	当該施設の延べ床面積。複数棟から構成されている施設はそれぞれの棟延べ床面積を合算した面積。 ※延床面積が空欄の施設は複合施設内に設置されている施設である。複合施設については、全体の延床面積を施設の主たるサービス・機能に記載している。 ※数値の端数処理は四捨五入しているため、合計が内訳と一致しない場合がある。
築年	当該施設の建築年度。複数棟から構成されている施設は主要な棟と設定した棟の建築年度。

実態と課題

6つのポイントに着目して施設機能毎の実態と課題を整理しています。各ポイントの説明は以下のとおり。

要素	説明
配置	対象施設の配置状況について記載しています。どのように地域に分散しているのか、また、利用する際の交通事情などで特徴的な事項を記載しています。
建物	対象施設の老朽化状況や施設保全のための主な施設改修状況を記載しています。
機能	対象施設で提供する機能の確認をしています。複合化の状況等もここで記載しています。
利用	対象施設の利用状況について記載しています。主に施設再編を検討するうえで参考とすべきデータに限定しています。
運営	対象施設の運営状況について記載しています。市の直営なのか、民間等への委託で運営されているのかなどを記載しています。
コスト	対象施設で行われている事業にかかる費用について記載しています。2015 年度行政コスト計算書を活用し、費用と収入の関係や原単位あたりのコストを示しています。 ※一部の施設機能においては掲載なし。

4つの視点から

実態と課題の整理をもとに、4つの視点から分析を加えています。

視点	説明
行政関与の必要性	当該サービス・機能がどのような法令等に基づき提供されているのか、市が施設を設置する義務があるのか、サービス・機能の提供が義務づけられているものなのか等について記載しています。
設置目的との整合性	施設を設置した目的と現在の施設の利用実態が整合しているか記載しています。
利用状況の妥当性	利用の状況について記載しています。課題となる（なりえる）利用実態がある場合は、その内容を記載しています。
施設の代替性	類似するサービス・機能が他の公共施設や民間施設で提供されていないか記載しています。

現状・課題

上記の整理から、現在の施設の状況や将来を見据えた課題についてまとめています。

■ 施設機能毎の今後の方向性の見方

長期的な視点をもって総合的かつ計画的に再編を進めていくため、まず施設機能毎に今後の方向性を決めました。個々の施設の具体的な再編については、機能毎の方向性をベースにして検討していきます。

▼機能毎の方向性は次の構成で作成されています。

再編後のイメージ例

町田市の公共施設再編は、経営的視点にたった見直しを行うと同時に、将来に向けたより良いかたちを実現することを目的としています。

そこで、施設機能毎の再編後のより良いかたちに対する理解を深めて頂くため、再編のねらいを示すとともに、その様子をイラスト※にしました。

※ イラストは再編によって実現しようとするかたちの要素をイメージ化したものであり、イラスト通りに施設等を整備することを示したものではありません。

～こんな取り組みも始まっています～

建物総量の削減や様々な効率化等を図りつつ、必要なサービスの維持・向上や時代にあった新たな価値を創造していくためには、前例踏襲ではない発展的な考えや取り組みも必要となります。そこで、再編後のイメージ例や今後の方向性の理解につながるような新しい取り組みや、新しい公共・公益的サービスのかたちを考えるきっかけとなるような取り組み等をご紹介します。

今後の方向性

施設機能毎の今後の方向性及び今後の方向性に沿った再編の取り組みと時期を示しました。

短期（2018-2026 年度）の取り組みについては、より具体的な「再編プログラム」を作成します。

- [行政経営改革プラン]と記載のある取り組みは、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」の実行計画である『町田市 5 ヶ年計画 17-21』の「行政経営改革プラン」に基づく取り組みです。
- [継続]と記載のある取り組みは、記載のある時期だけでなく、以降の時期についても継続して実施する取り組みです。

方向性の実現に向けた主な手法

方向性を実現していくうえで効果的な手法をアイコンで提示しました。

アイコン表示	説明
集約	集約
複・多	複合化・多機能化
L	L C C削減
長	長寿命化
連携	市民・地域連携
P P	PPP/PFI
活用	市有財産の活用
民	民による公共・公益的サービス

庁舎・窓口施設等の実態・課題	6
▶ 庁舎・窓口施設等の今後の方向性	8
文化ホール施設の実態・課題	10
▶ 文化ホール施設の今後の方向性	12
集会施設の実態・課題	14
▶ 集会施設の今後の方向性	16
図書館の実態・課題	18
▶ 図書館の今後の方向性	20
美術館・博物館等の実態・課題	22
▶ 美術館・博物館等の今後の方向性	24
生涯学習施設の実態・課題	26
▶ 生涯学習施設の今後の方向性	28
学校の実態・課題	30
▶ 学校の今後の方向性	34
高齢者福祉施設の実態・課題	36
▶ 高齢者福祉施設の今後の方向性	38
障がい福祉施設の実態・課題	40
▶ 障がい福祉施設の今後の方向性	42
保健施設の実態・課題	44
▶ 保健施設の今後の方向性	46
保育園・児童発達支援センターの実態・課題	48
▶ 保育園・児童発達支援センターの今後の方向性	50
子どもセンター・子どもクラブの実態・課題	52
▶ 子どもセンター子どもクラブの今後の方向性	54
学童保育クラブの実態・課題	56
▶ 学童保育クラブの今後の方向性	60

スポーツ施設の実態・課題	62
▷スポーツ施設の今後の方向性	64
レクリエーション・観光施設の実態・課題	66
▷レクリエーション・観光施設の今後の方向性	68
産業系施設の実態・課題	70
▷産業系施設の今後の方向性	72
防災施設の実態・課題	76
▷防災施設の今後の方向性	79
その他集会施設の実態・課題	80
▷その他集会施設の今後の方向性	81
その他展示等施設の実態・課題	82
▷その他展示等施設の今後の方向性	83
その他教育施設の実態・課題	84
▷その他教育施設の今後の方向性	85
医療施設の実態・課題	86
▷医療施設の今後の方向性	87
その他高齢者福祉施設の実態・課題	88
▷その他高齢者福祉施設の今後の方向性	89
市営住宅の実態・課題	90
▷市営住宅の今後の方向性	91
供給処理施設の実態・課題	92
▷供給処理施設の今後の方向性	94
下水道施設の実態・課題	96
▷下水道施設の今後の方向性	97
駐車場・自転車等駐車場の実態・課題	98
▷駐車場・自転車等駐車場施設の今後の方向性	99

庁舎・窓口施設等の実態・課題

■ 施設概要

職員が勤務する庁舎として、市庁舎、土木・公園サービスセンター、市民フォーラム、出張所機能として6つの市民センター、5つの連絡所が設置されています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		市庁舎	45,789	2012	
忠生	◎	忠生市民センター	4,810	2015	忠生図書館 忠生保健センター
鶴川	◎	鶴川市民センター	2,610	1985	鶴川保健センター
南		南市民センター	2,117	1986	
成瀬	◎	なるせ駅前市民センター	2,077	1995	自転車等駐車場
相原	◎	堺市民センター	2,863	1982	堺図書館 ふれあいけやき館
小山 小山ヶ丘		小山市民センター	2,705	1994	
町田中心		町田駅前連絡所	109	1997	
本町田 薬師池	○	木曽山崎連絡所		1982	木曽山崎コミュニティセンター ふれあいぐみ館
玉川学園 南大谷	○	玉川学園駅前連絡所		1973	玉川学園コミュニティセンター
南		南町田駅前連絡所	121	1989	
鶴川	○	鶴川駅前連絡所		2012	町田市鶴川緑の交流館
忠生		土木・公園サービスセンター	2,452	1991	
町田中心		市民フォーラム	4,465	1999	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 市民センターや連絡所は各地域の比較的交通利便性の良い位置に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 14 施設中 5 施設で築 30 年以上経過しており施設改修時期を迎えている。
- 〔機能〕 ・ 各種窓口業務及び行政サービスを行うための業務が行われている。
- 〔利用〕 ・ コンビニでの発行サービスを開始しているが、いまだ利用者は少ない。
- 〔運営〕 ・ すべて市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 窓口業務にかかる費用は受付人数 1 人当たり 1,000 円前後である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 市長の権限に属する事務を処理するため、または市民の便宜を図る目的として規則に基づき設置されているものであるが、設置が義務付けられているものではない。

設置目的との整合性

- ・ 行政運営に必要な執務が行われており、設置目的と整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 市庁舎の市民課窓口受付件数は市民センターや連絡所の取扱件数と比較すると非常に多く、大きな差がある。
- ・ 町田駅前連絡所の行政窓口取扱件数は市民センターとほぼ同水準であり、その他の連絡所は市民センターの約半数ほどである。
- ・ コンビニでの証明書等の発行サービスを開始しているが、いまだ普及率は低い。

施設の代替性

- ・ 市民センター窓口機能や連絡所窓口機能は市庁舎で代替可能である。
- ・ 一部を除き、証明書発行機能はコンビニエンスストアで代替が可能である。

〔現状・課題のまとめ〕

行政手続きにおいて市民の便宜を図るため、市庁舎の他に市民センターや連絡所を設置していますが、必要となる行政手続き内容によって将来の施設のあり方は大きく変化します。たとえば、マイナンバー制度の進展によって、証明発行件数が少なくなることや、電子による申請が行えるようになることも予想されます。一部証明書の交付も既にコンビニエンスストアで行えるようになっており、将来の姿を見据えた庁舎・窓口施設機能のあり方を見直していくことが課題です。

▶庁舎・窓口施設等の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

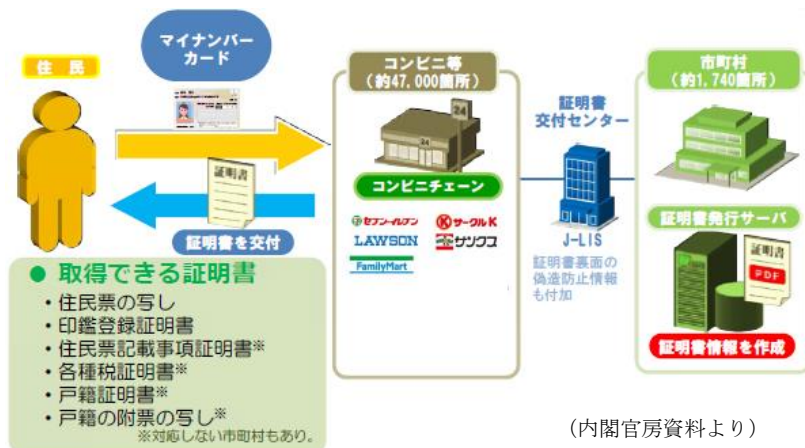
- ・ マイナンバー制度の進展やコンビニエンスストアでの証明発行機能の拡大により、行政窓口へ出向く手間を最小限になり、より簡便かつ身近にサービスを受けられるようになります。
- ・ 行政窓口だけでなく、他のサービスも一度に受けることができる地域拠点機能を強化します。



～こんな取り組みも始まっています～

マイナンバーの活用

マイナンバー（個人番号）を活用することにより、各種行政手続きのオンライン申請や、コンビニなどでの各種証明書の取得などを行うことができます。現在、町田市でも主要なコンビニで住民票の写し、印鑑登録証明書、各種税証明書、戸籍証明書が取得できます。コンビニ交付サービスを利用することにより、いつでも、どこでも交付サービスを受けることができます。また、マイナンバーの運用は、児童扶養手当の申請や障がい福祉サービスの申請等の手続きの際に必要な住民票や課税証明書等そのものが省略可能となるため、申請者が行う手続きの簡素化にも繋がります。



(内閣官房資料より)

■ 今後の方向性

集約

複・多

長

P P

活用

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、維持する建物については、複合化・多機能化や長寿命化により地域拠点としての機能強化を図る。

- ✓ 施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。
- ✓ コンビニエンスストアでの証明書発行機能を拡大し、連絡所と市民センターの集約や廃止を含めた配置と機能のあり方を検討する。
- ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。
- ✓ 行政サービスや職員数の減少に応じて空いたスペースは、適宜他の用途に転用して有効活用する。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。[行政経営改革プラン]
- ・ 市民センター及び連絡所の施設ごとの方向性※を決定する。
※再編対象施設及び再編時期の決定を含む。
- ・ 短期及び中期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。
- ・ 短期の再編対象施設の再編を実施する。
- ・ 市庁舎内の用途見直しによる有効活用を図る。[継続]

中期（2027～2036 年度）

- ・ 中期の再編対象施設の再編を実施する。
- ・ 長期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。

長期（2037～2055 年度）

- ・ 長期の再編対象施設の再編を実施する。

文化ホール施設の実態・課題

■ 施設概要

大型の文化ホール施設として、町田市民ホールと鶴川緑の交流館の 2 施設を保有しています。なお、鶴川緑の交流館は、ネーミングライツ制度を導入しており、スポンサー事業者が施設名（和光大学ポプリホール鶴川）の権利を保有しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		町田市民ホール	6,651	1972	
鶴川	◎	鶴川緑の交流館 (和光大学ポプリホール鶴川)	5,979	2012	鶴川駅前連絡所 鶴川駅前図書館

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 町田駅、鶴川駅の駅至近に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 町田市民ホールは築 30 年以上を経過している。
- 〔機能〕 ・ 施設にはホール以外にも練習室や展示室、エクササイズルームなどの機能がある。
- 〔利用〕 ・ 2 施設ともにホールの利用率は高いが、一部の部屋の利用率が低い。
- 〔運営〕 ・ 文化ホール施設は 2 施設ともに指定管理者により運営している。
- 〔コスト〕 ・ 文化ホール施設 2 施設の行政費用は年間 2 億円超である。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 条例により設置しているものであり、法的に設置が義務付けられているものではない。

設置目的との整合性

- ・ 文化の向上や福祉の増進、市民活動の推進という点で整合している。

利用状況の妥当性

- ・ ホールの利用率は高いが、その他の部屋の利用率は高くない。

施設の代替性

- ・ 市民フォーラムや生涯学習センター、市民センター等にも小規模なホールがある。

〔現状・課題のまとめ〕

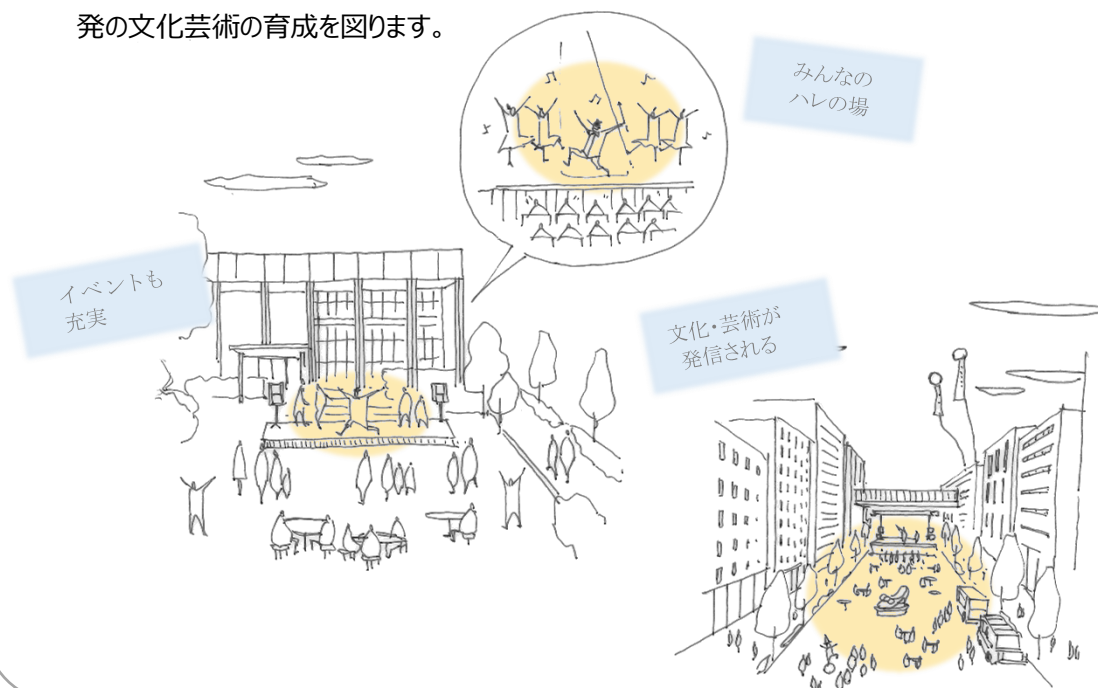
市民の文化向上や福祉の増進等を目的に設置されていますが、一部、集会施設や生涯学習施設などの他機能との機能重複がみられる状況です。ホールは商業利用、一般利用含めて利用率が高い状況ですが、会議室など一部の部屋は比較的利用率が低い状況にあります。施設を有効に活用し、サービスを向上させながら収益性を上げるための検討をしていくことが課題です。

▶文化ホール施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆

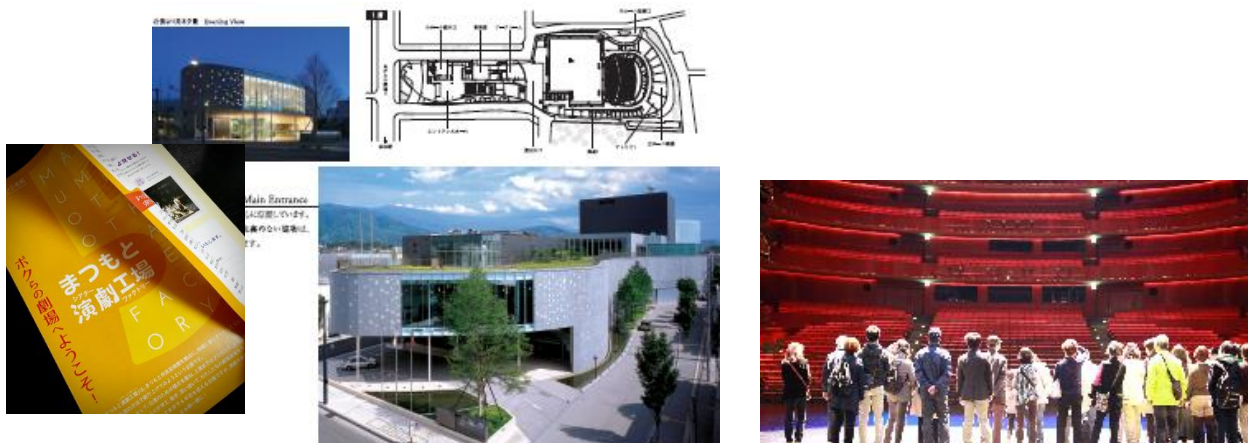
- ・ 施設運営に民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な観点で管理運営できると同時に、これまで以上に魅力的な付加サービスを提供します。
- ・ 公共施設に限らず文化芸術に関連した他の施設とのネットワークを形成し、地域との連携強化や町田発の文化芸術の育成を図ります。



～こんな取り組みも始まっています～

まつもと市民芸術館(松本市)

2004年に開館したさまざまな舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、市民の活発な芸術活動を支援し、多彩な交流等が実現しています。演劇経験の有無にかかわらずオーディションを経たメンバーたちが創作活動を行う演劇学校「まつもと演劇工場」、合唱団もオーケストラも市民でまかなう「まつもと市民オペラ」、さまざまな仕事を市民サポーターが支える「信州・まつもと大歌舞伎」、商店街の協力と市民との協働事業で行われている「まつもと街なか大道芸」など、まつもと芸術館を中心としたさまざまな芸術活動により、市民の交流等が生まれています。



■ 今後の方向性

集約

長

P P

活用

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、建物の長寿命化や民間ノウハウを効果的に取り入れ、施設の一層の有効活用等により、文化芸術に関する活動の場の維持や活性化を図り市の魅力を向上させる。

- ✓ 民間ノウハウを活かした管理運営により、収益性の向上を図る。
- ✓ 会議室などの利用率の低い機能は、転用等を含めた見直しを行う。
- ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 収益性向上に向けた検討を実施する。[継続]
- ・ 施設内一部の転用を含めた活用の検討を実施する。[継続]
- ・ 町田市民ホールの大規模改修に向けた検討及び調整を進める。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 町田市民ホールの長寿命化に向けた大規模改修を実施する。

長期（2037～2055 年度）

集会施設の実態・課題

■ 施設概要

市民センターを 6 施設、コミュニティセンター等を 8 施設保有しています。市民センターは、広く地域活動の拠点としてホールや会議室を備えた市民が利用できる施設で、市役所の出張所機能をもつ施設となっています。コミュニティセンターはホール、会議室といった集会機能が中心の施設となっています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
忠生	◎	忠生市民センター	4,810	2015	忠生図書館 忠生保健センター
鶴川	◎	鶴川市民センター	2,610	1985	鶴川保健センター
南		南市民センター	2,117	1986	
成瀬	◎	なるせ駅前市民センター	2,077	1995	自転車等駐車場
相原	◎	堺市民センター	2,863	1982	堺図書館 ふれあいけやき館
小山 小山ヶ丘		小山市民センター	2,705	1994	
玉川学園 南大谷	◎	玉川学園コミュニティセンター	595	1973	玉川学園駅前連絡所
忠生		木曽森野コミュニティセンター	1,000	1988	
忠生		上小山田コミュニティセンター	258	1977	
本町田 薬師池	◎	木曽山崎コミュニティセンター	2,105	1982	木曽山崎連絡所 ふれあいぐぬぎ館
南		つくし野コミュニティセンター	1,003	1982	
成瀬		成瀬コミュニティセンター	1,847	2016	
鶴川	◎	三輪コミュニティセンター	1,503	2001	デイサービス三輪
町田中心		町田市民フォーラム	4,465	1999	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 市民センター・コミュニティセンターは概ね各地域の比較的交通利便性の良い位置に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 14 施設中 7 施設で築 30 年以上経過している。
- 〔機能〕 ・ 各施設には会議室をはじめとした貸出部屋が複数設けられており、施設案内予約システムより利用することができる。
- 〔利用〕 ・ ホールや音楽室の利用率が高く、和室や調理室の利用率は低く、夜間はさらに低い。
- 〔運営〕 ・ 貸出施設の運営はすべて市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 使用料による収入が費用の 1 割以下である施設が多い。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 条例により設置している施設であって、法律で義務付けられているものではない。

設置目的との整合性

- ・ 地域住民の文化活動が行われている点で整合性があるといえる。

利用状況の妥当性

- ・ ホールや音楽室の利用率が高い。
- ・ 会議室や和室など、夜間時間帯で利用率が低い部屋がある。

施設の代替性

- ・ 集会機能は他の公共施設のスペース活用による代用も可能である。
- ・ 公共施設以外にも集会機能を有する場は多く存在している。

〔現状・課題のまとめ〕

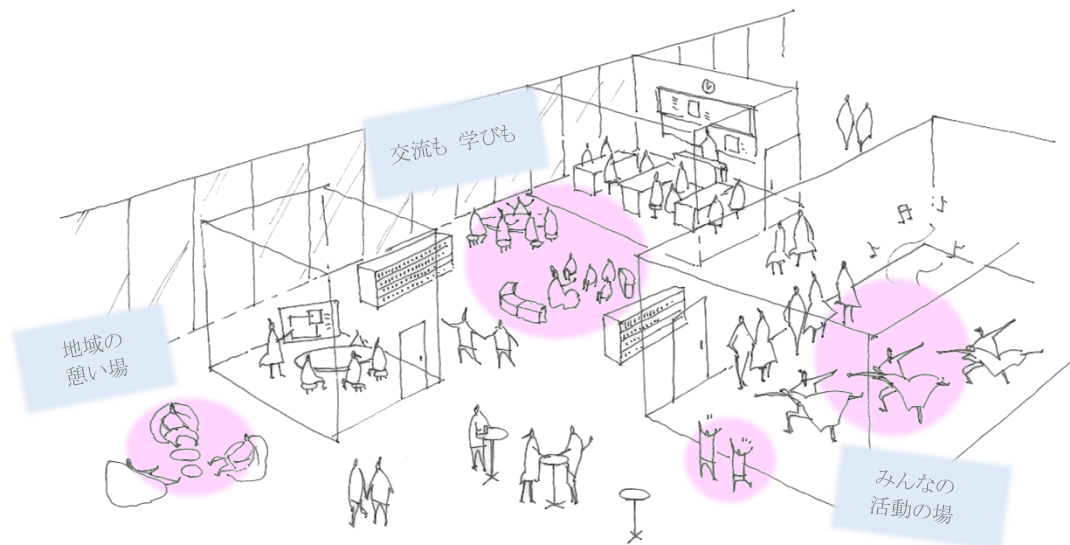
集会施設では市民の交流や文化活動を支援しています。ただし、一部、文化ホール施設や生涯学習施設などの他機能との機能重複がみられる状況です。また、現状では部屋のタイプや時間帯により利用状況にバラつきがある状況です。サービスレベルの見直しと、管理運営手法の見直し、集約及び複合化による効率的かつ効果的なサービスのあり方の検討が課題です。

▶集会施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆ㄱ

- ・ 複合施設へ機能移転することで、集会機能以外のサービスに触れる機会が生まれ、利便性が高まると同時に、そこでの新たな交流や活動のきっかけが生まれます。
- ・ 活動や交流が活発になることで、一層の地域コミュニティの強化や高齢者等の健康増進が図られます。



～こんな取り組みも始まっています～

横浜市 コミュニティハウス

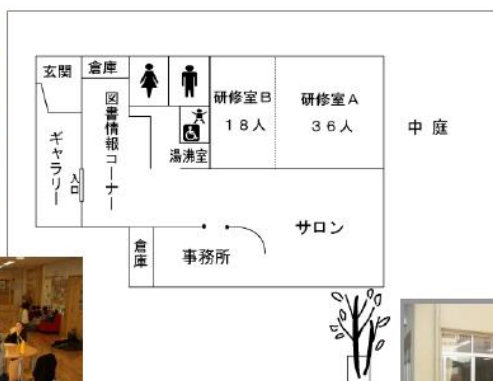
横浜市では地域の人々の身近な地域活動や生涯学習の場として、コミュニティハウスを学校施設内や既存施設を活用して設けています。このうち、東山田中学校では、神奈川県で初めて地域住民や保護者などが一定の権限を持って学校運営に参画し、地域に開かれた学校「コミュニティスクール」として2005年に開校しました。中学校の中庭に面した市民利用施設—コミュニティハウスは、地域住民が自らの活動の場を住民自身の手で運営し、地域住民の生涯学習や地域活動の場を身近に確保するとともに、学校と地域との交流・連携を深めています。



図書情報コーナー



ある日のサロン



中学校の中庭に面した
380㎡の市民利用施設



中庭



おやこのひろば



夏休みの小学生キャンプ
中学生のボランティア活動

集約化や複合化・多機能化により建物の総量の圧縮や地域の活動拠点の強化を図るとともに、管理運営手法等の見直しを実施することで、新たな交流や活動の場を維持し、豊かで持続可能な地域社会づくりを進める。

- ✓ 利用率の低い夜間帯の施設利用のあり方を検討する。
- ✓ 集会機能及び集会機能と類似する機能の整理を行い、施設の集約または複合化を図る。
- ✓ 施設ごとのサービスのあり方や管理運営手法等を見直す。
- ✓ 公平かつ社会環境に適合した受益者負担の適正化を図る。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 施設ごとのサービスのあり方や管理運営手法等を見直す。[行政経営改革プラン]
- ・ 学校等への機能移転を含め、施設ごとの方向性※を決定する。
※再編対象施設及び再編時期の決定を含む。
- ・ 短期及び中期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。
- ・ 短期の再編対象施設の再編を実施する。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 中期の再編対象施設の再編を実施する。
- ・ 長期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。

長期（2037～2055 年度）

- ・ 長期の再編対象施設の再編を実施する。

図書館の実態・課題

■ 施設概要

市では、図書館を 8 施設保有しています（中央図書館と地域館 7 館）。また、移動図書館車 3 台のほか、市民文学館でも図書館サービスを行っています。さらに、他部と連携し、市内 4 つの公共施設で予約資料受渡しサービスを実施しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
町田中心		中央図書館	5,968	1989	
町田中心		さるびあ図書館	1,318	1971	
鶴川	○	鶴川駅前図書館		2012	町田市鶴川緑の交流館
鶴川		鶴川図書館	260	1967	
南		金森図書館	1,500	1999	
忠生	○	忠生図書館		2015	忠生市民センター
本町田 薬師池		木曽山崎図書館	320	1975	
相原	○	堺図書館		1982	堺市民センター

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 町田駅周辺と鶴川駅周辺の図書館は配置が重複している。
- 〔建物〕 ・ 8 施設中 4 施設で築 30 年以上経過しており、施設の改修時期を迎えている。
- 〔機能〕 ・ 予約・リクエストサービスをはじめ、移動図書館、相互利用サービス、レファレンスサービス、障がい者サービス、児童サービス等、さまざまな形で図書館サービスの充実を図っている。なお、視聴覚資料の貸出は中央図書館でのみ行われている。
- 〔利用〕 ・ 市内 8 か所の図書館の合計年間貸出冊数は 400 万冊前後で推移している。
- ・ 図書館別の年間貸出冊数は新規開館の図書館以外、減少傾向にある。
- ・ 予約資料受渡しサービスは増加傾向にある。
- ・ 相互利用サービスによる他市の市民が町田市立図書館から借りる点数は、町田市民が他市の図書館から借りる点数よりも多い。
- 〔運営〕 ・ 全施設が直営である。
- 〔コスト〕 ・ 貸出資料 1 点当たり費用は 126 円から 464 円とやや開きがある。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省、平成 24 年改正）では、市町村は市町村立図書館及び分館等の設置に努めることとしており、条例に基づき設置している。

設置目的との整合性

- ・ 図書サービスが提供されており、設置目的との整合性があるといえるが、図書を活用せずに行う学習や居場所として利用されている実態もある。

利用状況の妥当性

- ・ 新規開館の図書館を除くと貸出冊数は減少傾向にある。
- ・ 小山市民センター、南町田駅前連絡所での予約資料受け渡しは利用が増加傾向にある。

施設の代替性

- ・ 町田駅周辺と鶴川駅周辺には複数の図書館が重複して配置されており、集約の検討が可能。
- ・ 他市へのアクセスが可能な地域では、相互利用図書館の利用が可能。

〔現状・課題のまとめ〕

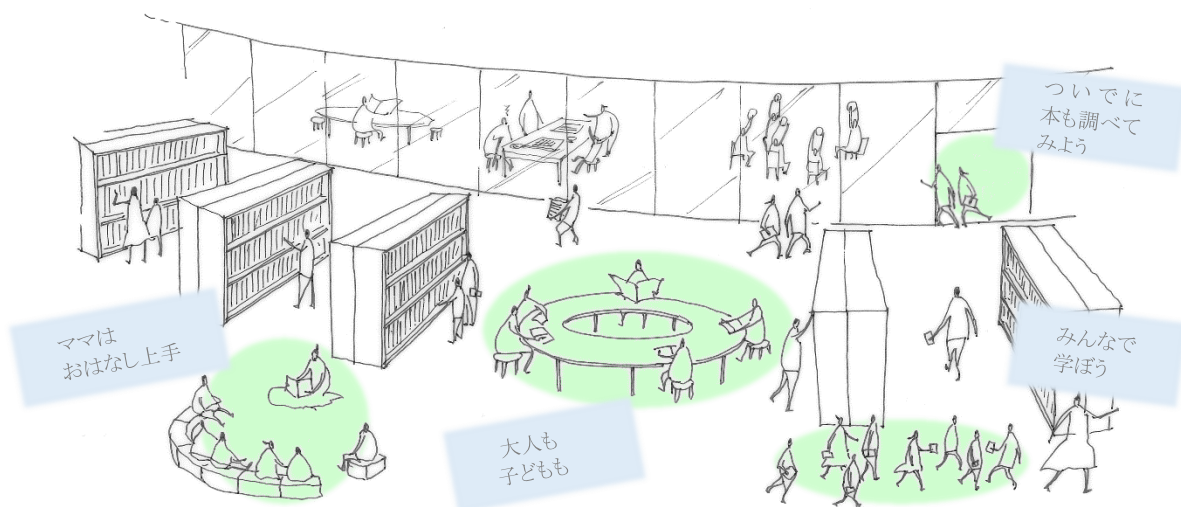
図書館サービスは行政で確保していく必要性が高いサービスですが、一部の図書館は配置が近接しており集約の検討が可能です。また、貸出冊数は、予約資料受け渡し分は増加傾向にありますが、貸出冊数総数は減少傾向にあります。サービスの利便性向上だけでなく、多くの人が図書に触れる機会を新たに創出できるかが課題です。

▷ 図書館の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆ ㄱ

- 図書館機能を学校をはじめとした地域の活動拠点に移転することで、より多くの人が図書に触れる機会を創出します。
- 地域の活動拠点では他機能と連携し市民の活力を活かした、図書に関連した新たなサービスが創出されます。



～こんな取り組みも始まっています～

志木市立いろは遊学図書館

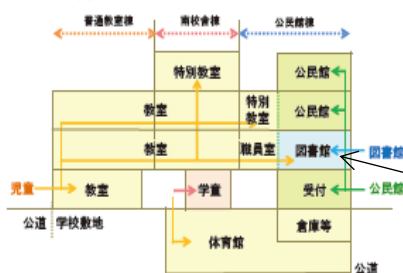
志木市立いろは遊学図書館は、いろは遊学館（公民館）、市立志木市小学校とともに複合施設として設置されています。いろは遊学図書館は地域に開かれた図書館として、棟や入口は違うものの明確な区分はほとんどなく、児童と地域の人が同じ時間に利用しています。この取り組みは、「学校教育」と「社会教育」の垣根を取り払い、お互いを補うことで高い効果を生み出すことを目指しています。

神戸市 アウトドアライブラリー

神戸市の中心部にある公園である東遊園地では、市民有志の実行委員組織により公園に図書館をつくる「アウトドアライブラリー」という建物にとらわれないオープンスペースを活用した社会実験が行われました。本は市民がおすすめの1冊を持ち寄り、公園に設置された本棚に置かれます。

<志木小学校>

<立面図>



児童と地域の人が
一緒に使う

<アウトドアライブラリー>



本棚が置かれた公園

■ 今後の方向性

集約

複・多

民

集約化や複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ、地域の活動拠点に機能を移転することで、本に触れ親しむ機会や本を通じた交流の機会を増やす。また、**市民等の活力**を活かした図書に関連した新たなサービスにより図書に親しむ機会や場の充足を目指す。

- ✓ さるびあ図書館及び鶴川図書館は配置が近接している中央図書館及び鶴川駅前図書館へ集約を検討する。
- ✓ 複合施設でない地域館は周辺学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。
- ✓ 効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討する。

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ さるびあ図書館及び鶴川図書館をはじめとする各地域館の方向性※を決定する。
※再編対象施設及び再編時期の決定を含む。
- ・ 効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討を実施する。〔行政経営改革プラン〕
- ・ 短期及び中期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。
- ・ 短期の再編対象施設の再編を実施する。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 中期の再編対象施設の再編を実施する。
- ・ 長期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。

長期（2037～2055 年度）

- ・ 長期の再編対象施設の再編を実施する。

美術館・博物館等の実態・課題

■ 施設概要

市では、市立博物館以外に、特色のある活動を行っている展示施設が 5 ヶ所あります。

さらに、現在市では、市立博物館の工芸作品を活用し、ガラス・陶磁器を中心とした(仮)国際工芸美術館の整備を芹ヶ谷公園に検討しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		国際版画美術館	7,840	1986	
本町田 薬師池		市立博物館	1,411	1972	
本町田 薬師池		本町田遺跡公園多目的施設	169	2011	
町田中心		町田市民文学館ことばらんど	2,154	1978	
北部の丘 陵		自由民権資料館	911	1986	
忠生		町田市考古資料室	664	1990	
本町田 薬師池		ふるさと農具館	405	1992	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 駅から近い施設は 2 施設である。
- 〔建物〕 ・ 7 施設中 4 施設で築 30 年以上経過している。
- 〔機能〕 ・ 展示室・収蔵保管庫や作業室のほかに、講堂や閲覧室などの部屋がある。
- 〔利用〕 ・ 利用者数は横ばいか増加している。
- 〔運営〕 ・ 5 施設が直営、1 施設が指定管理、1 施設が委託で運営されている。
- 〔コスト〕 ・ いずれの施設も費用に対して収入が低い。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 施設の設置義務はないが、「社会教育法」では、国民自ら実生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならないとある。
- ・ 「文化芸術振興基本法」では、地方公共団体は、文化芸術の振興に関し、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務があるとされている。
- ・ 文化財については、文化財保護法に基づいて、保存を適切に行うこと、活用を図ること、国民の文化的向上に資することとされている。

設置目的との整合性

- ・ 当初の設置目的と整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 市民文学館ことばらんどは、展示観覧の利用者が40%で講演会等イベントを含む施設貸出しの利用割合は高い。
- ・ 考古資料室では、アウトリーチ展示（他施設での展示）のほうが見学者が多い。
- ・ いずれの施設も費用に対して使用料等の収入は低い。
- ・ 美術館・博物館は、資料の調査や保存・管理費等を含むため、1人あたりの費用が他機能に比べて高くなる傾向にある。

施設の代替性

- ・ 都心部や近隣他市には民間や自治体の設立した美術館・博物館が多数開館している。
- ・ 集会施設は、町田駅付近に多数あるため代替性が高い。
- ・ 民間では町田市全体の文化や歴史を総合的に調査・研究し、資料の収集及び保存をしている施設がない。

〔現状・課題のまとめ〕

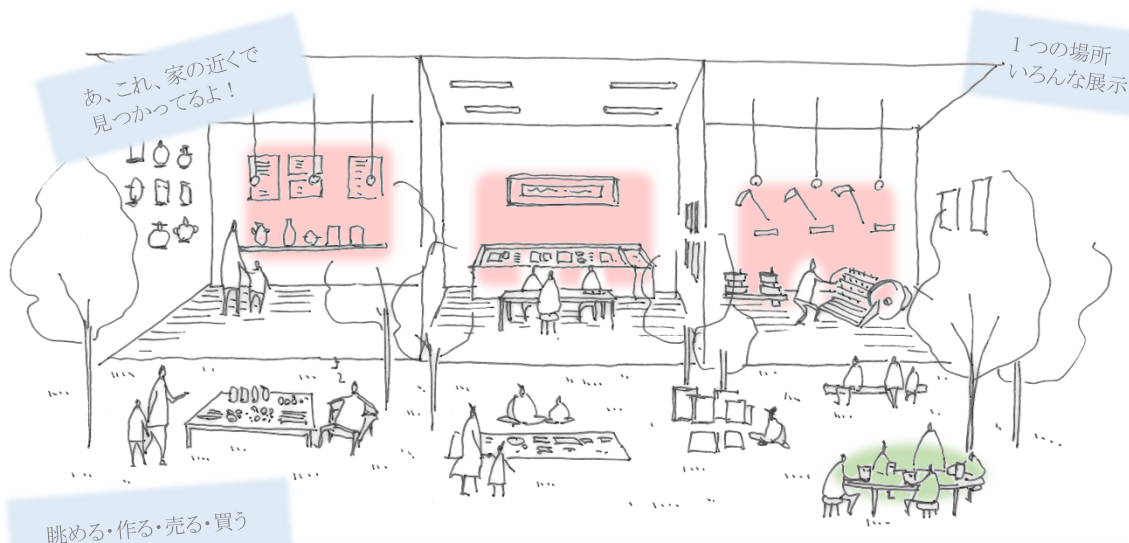
都心部や近隣他市には民間や自治体の設立した美術館・博物館が多数開館していますが、町田市の文化や歴史を調査・研究し、資料の収集及び保存・展示をしているのは主に市の施設です。維持管理費については、展示や収集の他に資料の調査や保存・管理費等を含むため、利用者1人あたりの費用が他機能に比べて高くなる傾向にあり、運営方法を見直していく必要があります。また、各施設の利用者数は横ばいか増加傾向にありますが、考古資料室ではアウトリーチ展示のほうが見学者が多いことなどを勘案すると、他施設においても展示のあり方、機能の見直しについて検討することも必要です。収蔵品については、施設によって同種の資料が分散して保存されているため、収蔵場所を見直し、収蔵品のさらなる活用を検討することも課題です。なお、文学館の集会機能は、町田駅周辺にある施設への集約化を検討することも課題です。

▶美術館・博物館等の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- ・ 町田市の文化や歴史を伝える資料の集約により、より魅力的な展示をすることができ、多くの人が文化や歴史に触れる機会を提供することで、市民の市への愛着の醸成、教育、生涯学習などに寄与していきます。
- ・ アウトリーチ展示によって、特定の施設だけではない場所で文化や歴史に触れる機会が増えます。
- ・ 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、公園の空間や賑わいと一体となった文化・芸術活動の拠点となっており、魅力的な展示やイベントを開催することで市内外から多くの人が集まります。



～こんな取り組みも始まっています～

金沢21世紀美術館

金沢21世紀美術館は、「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に開設されました。2004年の開館6年前より新しい美術館で展開するプログラムを地域の小学校などを会場に実施、この積極的な準備活動を通して、市民の間に支援の輪が広がりました。開館後は、参加交流型の美術館として、新たな「まちの広場」としての役割を担い、だれもがいつでも立寄ることができ様々な出会いや体験が可能となるよう、キッズ向けプログラム、様々な図書・資料と連携したアトライブラリープログラム、学校連携事業など、市民や産業界等と連携を図りながら、多彩な活動が行い、年間200万人の来館者を集めています。



体験館を使った鑑賞授業



キッズスタジオ・プログラム

集約化や複合化・多機能化により建物の総量圧縮や施設の魅力の向上を図る。また、アウトリーチ展示等により文化や芸術等に触れる機会を増やす。

- ✓ 町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ、収蔵庫については既存施設を活用して集約化を図り維持管理コストを削減する。また、展示スペースの集約化を検討するとともに展示機能の魅力向上を図る。展示については施設間協力などすすめ、アウトリーチ展示も検討する。
- ✓ 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、他施設からのアウトリーチによる展示などの受け皿として活用を検討する。

取り組みの時期

短期 （2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 国際版画美術館と2022年度開館予定の（仮称）国際工芸美術館の効率的・効果的な管理体制を確立する。〔行政経営改革プラン〕
- ・ 博物館にある工芸品は（仮称）国際工芸美術館に移転し、その他の収蔵品については学校の教育活動で使用しない教室や既存の施設に保管し利活用する。
- ・ 自由民権資料館は、効率的・効果的な施設運営手法の見直し策について決定する。〔行政経営改革プラン〕
- ・ 町田市民文学館ことばらんどは、施設の存廃を検討し、存続する場合には、効率的・効果的な施設運営手法の見直し策について決定する。〔行政経営改革プラン〕
- ・ 町田市民文学館ことばらんどの集会機能については、中心市街地における集会機能の再編と合わせて整理する。
- ・ 本町田遺跡公園や園内の多目的施設は、ひなた村との連携など活用の検討を行う。
- ・ 町田市の文化や歴史を伝える資料の展示機能については、既存施設でのアウトリーチ展示も検討する。〔継続〕

中期 （2027～2036 年度）

- ・ 町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ収蔵庫の集約化及び展示スペースの集約化を図り、機能を移転させた施設の建物の建替えは行わない。
- ・ 維持する施設については、建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。

長期 （2037～2055 年度）

生涯学習施設の実態・課題

■ 施設概要

市では、生涯学習施設を 2 施設保有しています。生涯学習センターは公民館としての役割も有しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
町田中心		町田市生涯学習センター （まちだ中央公民館）	2,677	2002	
忠生		生涯学習センター 陶芸スタジオ	356	1993	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 生涯学習センターの配置は極めて好立地である。
- 〔建物〕 ・ 陶芸スタジオの耐用年数が近づいている。
- 〔機能〕 ・ 生涯学習センターは生涯学習事業の実施以外は集会・学習施設として利用されている。
 - ・ 陶芸スタジオは市民大学の陶芸講座専用の施設となっている。また、講座に使用しない部屋がある。
- 〔利用〕 ・ 生涯学習センターはいずれの部屋も利用率が高く、一部の部屋を除き夜間利用も多い。
- 〔運営〕 ・ 2 施設ともに市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 生涯学習センターの年間の行政コストは約 3.4 億円である。

4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では生涯学習施設（教育機関）を設置できるとされており、条例に基づき設置している。

設置目的との整合性

- ・ 施設立地が良いため、学習活動のみならず多様な用途に利用されており、整合していない側面がある。

利用状況の妥当性

- ・ 生涯学習センターは立地がよく施設全体の利用率が高い。
- ・ 陶芸スタジオは市民大学講座受講生とその卒業生に利用が限られているうえ、週に 1～2 回程度しか利用されていない。

施設の代替性

- ・ 市民の施設利用という点では、ホール、会議室等は他の公共施設でも保有している。
- ・ 生涯学習事業は特定の施設でなくてもアウトリーチによる実施が可能である。
- ・ 民間が運営している陶芸教室は市内・市外にもある。

〔現状・課題のまとめ〕

生涯学習センターは、人々が集い・学び・交流する社会教育・生涯学習の拠点です。学習活動を総合的に支援するため様々な事業を実施するとともに、生涯学習に関わる情報発信を行っています。また、学習施設として多く活用されているほか集会機能としての活用もされていることから施設全体の利用率が非常に高い状況です。その一方、より身近な地域で学習を行うための事業を展開していくことや、学習を通して得た知識や技能を地域で活かす仕組みづくりが課題です。陶芸スタジオは利用者が限定されており、陶芸の活動以外の活用は行っておらずサービスそのもののあり方も見直す必要があります。

▶生涯学習施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 生涯学習センターを生涯学習拠点に据えながら、地域への事業展開により、これまで以上に身近な場所
所で生涯学習に触れることができます。
- 生涯学習センターの建物をこれまで以上に多機能に活用し、中心市街地の活動拠点となります。



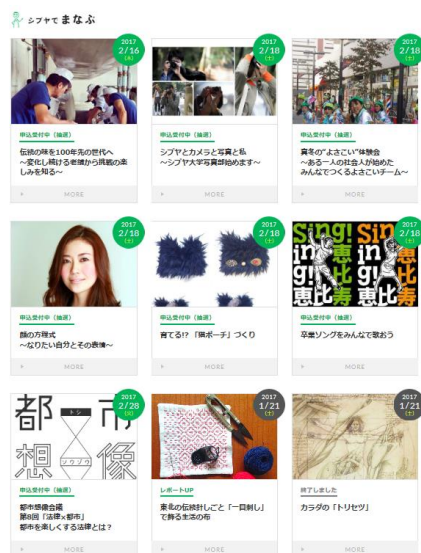
～こんな取り組みも始まっています～

シブヤ大学

東京の渋谷の街の公共施設、学校、カフェなど様々な場所をキャンパスとして、誰もが無料で学んだり、参加者同士のゼミ・サークル活動を行ったりすることをコーディネートする活動がNPO法人により実施されています。企業・自治体と連携しながら、さまざまな人が参加できる多様なプログラムを提供しています。



渋谷のさまざまな場所で・・・



さまざまなプログラムが行われています

■ 今後の方向性

複・多

連携

活用

民

施設の複合化・多機能化を図ることや特定用途に限定された施設の廃止により建物の総量を圧縮する一方、既存施設の活用をはじめとした地域での事業展開により、身近な場所で生涯学習に触れられるようになる他、市民が学習を通して得た知識や技能を地域で活かすことで、地域の活力が生まれる。

- ✓ 地域での事業展開を強化し実施する。
- ✓ 生涯学習センターは生涯学習機能だけではなく、中心市街地における集会機能としての役割も大きいことから、学習活動に限定しない施設として再編を検討する。
- ✓ 市民大学の陶芸教室は終了を検討する。

取り組みの時期

短期 （2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 生涯学習センターの役割や事業内容を再検討する。[行政経営改革プラン]
- ・ 民間活力の導入等、管理運営手法の見直しを実施する。[行政経営改革プラン]
- ・ 地域での事業展開を強化し実施する。[継続]
- ・ 生涯学習センターへ集会施設機能を付加する。
- ・ 市民大学陶芸教室の方向性を決定する。[行政経営改革プラン]

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

学校の実態・課題

■ 施設概要

市では、小学校 42 校、中学校 20 校を保有しています。

〔施設一覧〕

小学校

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
町田中心		町田第一小学校	6,815	1969	
町田中心		町田第二小学校	5,416	1964	
本町田 薬師池	◎	町田第三小学校	6,203	1965	竹ん子学童保育クラブ
町田中心		町田第四小学校	6,800	1971	
玉川学園 南大谷		町田第五小学校	6,374	1966	
玉川学園 南大谷		町田第六小学校	6,716	1964	
玉川学園 南大谷		南大谷小学校	6,438	1973	
鶴川	◎	藤の台小学校	7,061	1972	藤の台ポケット組学童保 育クラブ
本町田 薬師池		本町田東小学校	6,758	1970	
本町田 薬師池		本町田小学校	7,029	1977	
南	◎	南第一小学校	7,055	1965	南第一さくら学童保育ク ラブ
成瀬		南第二小学校	7,204	1978	
南		南第三小学校	6,088	1970	
南		南第四小学校	6,654	1966	
南	◎	つくし野小学校	5,141	1970	つくし野サービスセン ター
南	◎	小川小学校	6,925	1974	わんぱく学童保育クラブ
成瀬	◎	成瀬台小学校	7,609	1974	すまいる学童保育クラブ
南		鶴間小学校	6,407	1976	
成瀬		高ヶ坂小学校	5,573	1978	
成瀬	◎	成瀬中央小学校	5,999	1979	成瀬中央小あおぞら学 童保育クラブ
成瀬		南成瀬小学校	7,330	1980	
南		南つくし野小学校	7,514	1980	
北部の丘 陵		鶴川第一小学校	13,281	2015	
鶴川		鶴川第二小学校	7,561	1973	
鶴川		鶴川第三小学校	8,180	1967	
鶴川	◎	鶴川第四小学校	7,735	1970	デイサービス鶴川
鶴川		金井小学校	6,543	1977	

鶴川		大蔵小学校	7,644	1980	
鶴川		三輪小学校	6,109	1982	
忠生	◎	忠生小学校	7,710	1966	なかよし学童保育クラブ
北部の丘陵		小山田小学校	6,050	1980	
忠生		忠生第三小学校	6,680	1974	
忠生		山崎小学校	6,487	1980	
忠生		小山田南小学校	8,066	1983	
忠生		木曽境川小学校	6,959	1977	
本町田 薬師池		七国山小学校	7,435	1975	
小山 小山ヶ丘		小山小学校	7,646	1976	
小山 小山ヶ丘		小山ヶ丘小学校	10,227	2004	
相原		相原小学校	7,237	1968	
相原		大戸小学校	6,600	1983	
忠生		函師小学校	8,737	2008	
小山 小山ヶ丘		小山中央小学校	10,026	2009	

中学校

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	
町田中心		町田第一中学校	11,761	1962	
玉川学園 南大谷		町田第二中学校	7,806	1972	
本町田 薬師池		町田第三中学校	6,313	1967	
玉川学園 南大谷		南大谷中学校	7,460	1974	
南		南中学校	11,635	1968	
南		つくし野中学校	8,907	1975	
成瀬		成瀬台中学校	9,491	1979	
成瀬		南成瀬中学校	7,899	1981	
北部の丘陵		鶴川中学校	13,514	2001	
鶴川		鶴川第二中学校	8,467	1972	
本町田 薬師池		薬師中学校	7,379	1970	
鶴川		真光寺中学校	7,396	1980	
鶴川		金井中学校	6,606	1984	
忠生		忠生中学校	11,244	1973	
本町田 薬師池		山崎中学校	8,077	1979	
忠生		木曽中学校	7,622	1983	
忠生		小山田中学校	7,497	1983	
小山 小山ヶ丘		小山中学校	11,347	2011	
相原		堺中学校	9,795	1972	
相原	◎	武蔵岡中学校	5,014	1983	大戸のびっ子学童保育 クラブ

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 小山・小山ヶ丘、南地域に大規模校が集中して残ると予想されている。
- 〔建物〕 ・ 築 40 年以上の学校が全体の半数以上であり、老朽化対策が喫緊の課題である。
- 〔機能〕 ・ 地域開放を進めており、一部の学校には学童保育クラブ、高齢者施設が複合化をしている。
- 〔利用〕 ・ 児童生徒数のピークは 1980 年代で、現在はピーク時の 65%となっている。また、1 学年に 1 クラスしかない学年がある小学校は、今後増加する見込みである。
- 〔運営〕 ・ 給食調理業務や学校用務業務等について実施体制の見直しを行っている。
- 〔コスト〕 ・ 学校施設の運営にかかる費用は合わせて年間約 46 億円である。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 公立学校の教育施設として必要不可欠であり、行政関与の必要性がある。

設置目的との整合性

- ・ 整合している。複合している機能は学校教育や地域の拠点としての効果が認められる機能である。

利用状況の妥当性

- ・ 一部の学校は現在も児童生徒数が増加しているが、一方で普通学級数が減少している学校が多く出現している。
- ・ 教育活動で使用しない教室を学童保育クラブなどに活用している。

施設の代替性

- ・ 公立学校としての代替施設はない。
- ・ プール等一部の施設については、地域に類似の民間施設等があり、運用方法によっては代替も可能である。

〔現状・課題のまとめ〕

公立学校の教育施設として必要不可欠であり、今後も適切に維持していく必要がありますが、高度成長期に整備された大半の施設が一斉に老朽化し建替えの時期を迎えることが見込まれています。建物の長寿命化を図るためには、築 40 年前後で大規模な改修が必須であり、計画的に施設の更新を進める必要があります。また、屋外プールや給食室についても老朽化が著しいことから、学校施設の在り方や更新についての抜本的な検討、対応が必要です。なお、町田市の人口推計では、今後 40 年間で、年少人口が約 1 万 9 千人減少することが想定されており、建替えや改修にあたっては、適正規模・適正配置の観点を踏まえるとともに、地域の身近な公共施設、地域の拠点となるような学校の実現に向けた検討が課題となります。

学校施設の複合化による効果と課題

公共施設マネジメントが求められる社会的背景等も踏まえ、文部科学省は、子どもたちの多様な学習機会を創出するとともに、地域コミュニティの強化や地域の振興・再生にも資するよう、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」（文部科学省設置）にて報告書『学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について』（2015年11月）を取りまとめました。報告書では学校施設の複合化による効果と課題を以下のようにまとめたほか、複合化の効果的な取組事例等も掲載しています。

効果

①施設機能の共有化による学習環境の高機能化・多機能化

複合化により、単独の学校として整備するよりも施設機能の高機能化・多機能化を図ることができ、児童生徒や地域住民に多様な学習環境を創出するとともに、公共施設を有効的に活用することができる。

②児童生徒と施設利用者との交流

学校施設と他の公共施設等が併設されているという特徴を生かし、交流の機会を設けたり、日常的に互いの施設での活動等を目にしたることで、児童生徒と地域住民などの施設利用者との交流を深めることができる。

③地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成

学校施設と社会教育施設等との複合施設では、児童生徒の学びの場としてだけでなく、地域にとっても生涯学習の場となるとともに、伝統文化や行事の継承などを通して、地域のコミュニティの形成にも寄与することができる。

④専門性のある人材や地域住民との連携による学校運営への支援

様々な人材が集まるという特徴を生かし、学校の教育活動や課外活動などに専門性のある人材を活用したり、地域住民の協力を促したりすることで、児童生徒により高度な専門知識に触れる機会を創出したり、学校運営への支援が行われたりすることが期待できる。

⑤効果的・効率的な施設整備

学校施設や公共施設等をそれぞれ単体で整備するよりも、複数の公共施設等を複合施設として一体的に整備したり、既存学校施設を活用したりすることにより、域内全体の整備費用の削減や支出の平準化を図ることができる。

課題

①地方公共団体内の部局間の連携、教職員や地域住民との合意形成

学校施設と他の公共施設等との複合化に当たっては、地方公共団体内において複数の公共施設等関係部局が連携し、域内の公共施設の整備計画や、複合化する各施設の計画、管理・運営の方法等について検討することが必要となる。また、教職員や各施設の関係者はもとより、利用者となる地域住民が、問題意識を持って、自ら主体的に考えてアイデアを出すことで合意形成に至るように進めることが重要である。

②施設計画上の工夫

学校施設の複合化に当たっては、地域の実情に応じ、以下に示すことなどを総合的に判断し計画することが求められる。

<安全性の確保>

学校施設を含めた複合施設においては、児童生徒や学校関係者だけでなく、不特定多数の地域住民が利用することから、児童生徒が安心して学校生活を送れるようにするとともに、地域住民も安心して利用できるように、ハード・ソフトの両面から安全性を確保するための対応策を検討することが必要である。

<互いの施設の活動への支障の緩和>

学校施設と他の公共施設等が併設していることで、児童生徒と他の施設利用者との動線の交錯や、互いの音などにより、学校の教育活動や他の公共施設等の活動に支障を及ぼす可能性があることから、各施設の配置や動線、防音性の確保といった施設計画上の対策を図るとともに、互いの施設における利用方法や利用時間等のルールや活動内容について情報を共有して、その対応について検討することが必要である。

<施設の管理区分や会計区分の検討>

学校施設を含めた複合施設においては、各施設間の相互利用・共同利用が活発となることから、学校施設と他の公共施設等の専用部分と共同利用部分の管理区分や、施設利用料や光熱水費等の会計区分等の明確化や一元化の可否等について検討することが必要である。

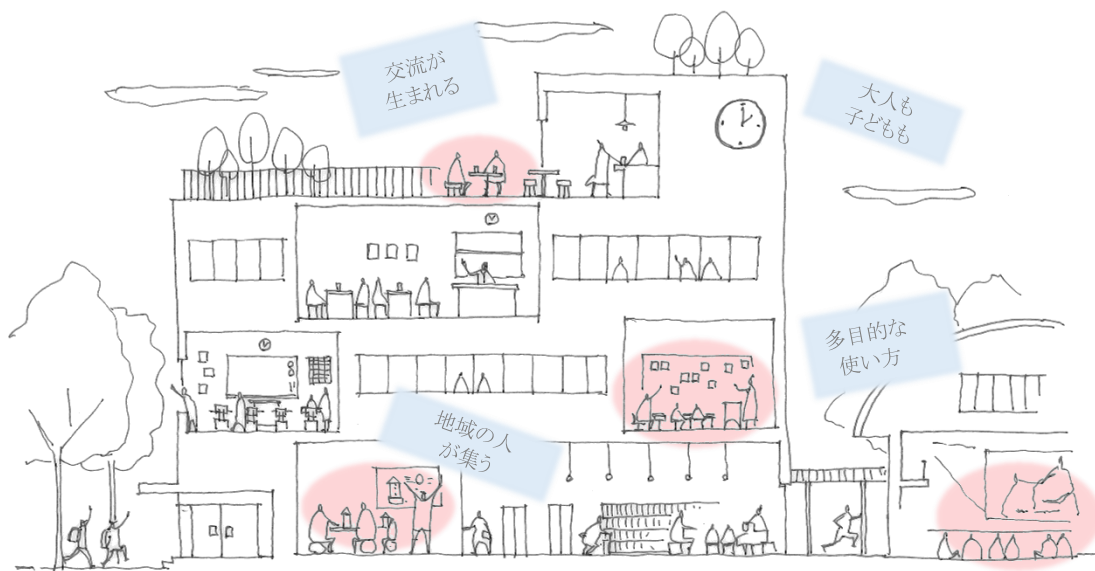
（『学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について』（2015年11月）より引用）

▶ 学校の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 児童・生徒数の減少に併せて適正な学校規模を維持するとともに、地域の拠点となり、多世代で多様な人々の交流や公益的なサービスが展開される場としていきます。



～こんな取り組みも始まっています～

豊島区池袋本町地区校舎併設型小中連携校

2016年6月に豊島区で初となる校舎併設型の小中連携校が、2校を統合した小学校と1校の中学校を同一敷地に併設して整備されました。基本的には小学校と中学校が区分されていますが、学習情報センター（ICT環境を完備した図書館・学習スペース）、プール、職員室、主事室、事務室などは小中学校共用とした効率化が図られています。また、小中学校連携により、9年間の学びに連続性を確保しカリキュラムに配慮した学習指導が行うことや、小中学校教職員相互の連携が生みやすくなることも目指しています。



小・中学校校舎、小学校運動場



プール



学習情報センター



小学校体育館

■ 今後の方向性

集約

複・多

長

活用

学校施設の適正な維持・管理のため建物の長寿命化や計画的な建替えを実施する。また、児童生徒数の減少に対応した学校の**適正規模・適正配置**を行うことにより、建物の総量圧縮を図る。さらに、学校施設の**有効活用**や他機能との**複合化・多機能化等**により多様な人々が交流し活動する場を創出し、愛着ある地域拠点施設とする。

- ✓ 建物の大規模改修や建替えを計画的に実施する。
- ✓ 段階的に必要な適正規模・適正配置を実施する。
- ✓ 教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。
- ✓ 教室の未利用時間の積極的な活用を図る。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 長寿命化が適する建物の大規模改修を実施するとともに、周辺の公共施設を複合化する。
- ・ 中期に実施する具体的な適正規模・適正配置の案を策定する。
- ・ 教育活動で使用しない教室や教室の未利用時間の積極的な活用を図る。[継続]
- ・ 民間施設のプールの活用等によるプールの集約を検討する。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 適正規模・適正配置により統廃合を進め、大規模改修と建替えを実施するとともに、周辺の公共施設を複合化する。[継続]

長期（2037～2055 年度）

高齢者福祉施設の実態・課題

■ 施設概要

高齢者福祉センター（ふれあい館）は、60 歳以上の方が、健康増進・教養の向上・レクリエーションのために利用できる施設です。広間や囲碁将棋室を保有しており、介護予防講座などの事業を行っています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
本町田 薬師池	○	ふれあいくぬぎ館		1982	木曽山崎コミュニティセンター
相原	○	ふれあいけやき館		1982	堺市民センター
町田中 心	○	ふれあいもっこく館		1988	健康福祉会館
鶴川		ふれあいいちよう 館	720	1977	
忠生	◎	ふれあい桜館	2,824	1993	小山田高齢者在宅サービスセ ンター
南		ふれあいもみじ館	607	1974	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 市内 6 地域に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 築 30 年を超える施設が 4 施設あり、それぞれ改修を行っている。
- 〔機能〕 ・ 複合している施設が 4 施設、単独施設が 2 施設ある。基本的に全館で同じサービスを提供している。
- 〔利用〕 ・ 各ふれあい館の月間利用実人数は約 200 人から約 500 人となっている。高齢者人口の増加や高齢者のニーズが変化している。
- 〔運営〕 ・ 5 館は直営、1 館のみ指定管理者による運営である。
- 〔コスト〕 ・ 利用料は無料であり、6 施設の行政収支の差額は約 2 億円である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 老人福祉法に基づいて設置している。設置は義務ではない。

設置目的との整合性

- ・ 当初の設置目的のとおり福祉施設として運用されている。
- ・ 高齢者人口が増加し、高齢者のニーズが変化している。

利用状況の妥当性

- ・ 利用者は 60 歳以上人口の約 2%である。

施設の代替性

- ・ 高齢者事業については、他の公共施設の空きスペースを利用することが可能。

〔現状・課題〕

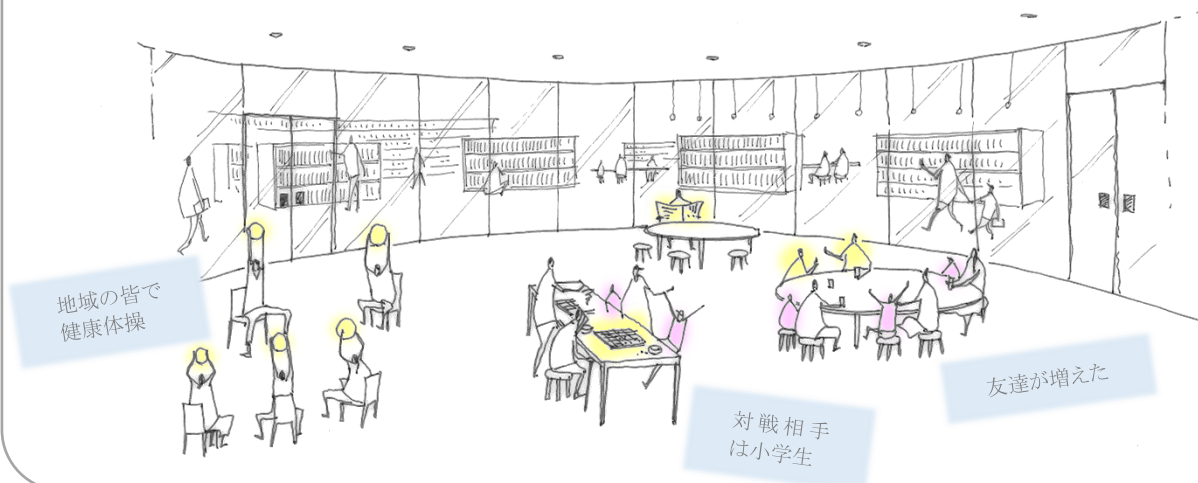
高齢者人口は増加していますが、ふれあい館の利用者は近年横ばいであり、利用者数は 60 歳以上人口の約 2%にとどまっています。高齢者事業に求められることも変化していると考えられ、内容の見直しが課題です。現在、ふれあい館内で行っている事業については、特定の施設にとどまらず、集会施設など他の公共施設を活用しながら、より身近な場所で展開していくことが可能です。

▶ 高齢者福祉施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 専用（固定）の施設によるサービス提供から、建物とサービスを切り離し、ソフト化を図ることで、より多くの場所でサービスを展開し、より身近な場所でサービスを受けられる機会を増やします。
- 高齢者の居場所づくりについても「高齢者」に限定した居場所ではなく、高齢者を含めた多様な世代・目的の方が集える場へ転換することで、人と人との交流やつながりを促します。



～こんな取り組みも始まっています～

総合スーパーが行っている高齢者向け「朝活」(イオン葛西店)

総合スーパーイオンが、高齢者向けに、早朝から体操、卓球、囲碁、などといった娯楽を無料で楽しめる「朝活」の展開を始めています。集客力を上げることが狙いであり、「朝活」後、参加者は館内のカフェなどで朝食を取ったり、食料品を買って帰ったりするため、ビジネスとしての効果も上がっています。高齢者が気軽に通える開かれた場として機能しており、人と人の交流を促したり、体を動かすことで健康づくりにも寄与しています。



体操する参加者



店舗内の囲碁・将棋のスペース

地域の活動拠点となる施設へ機能を移転することで、建物の総量圧縮を図るとともに、身近な場所でより多くの人がサービスを受けられる機会を増やす。

- ✓ 高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。
- ✓ 高齢者専用施設は建物の建替えは行わない。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 効率的・効果的な施設運営手法の見直し策について検討および決定する。[行政経営改革プラン]

中期（2027～2036 年度）

- ・ 高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。
- ・ 高齢者専用施設は建物の建替えは行わない。

長期（2037～2055 年度）

障がい福祉施設の実態・課題

■ 施設概要

市では福祉施設を 11 施設保有しています。うち障がい福祉施設が 10 施設、葬祭事業施設が 1 施設です。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
本町田 薬師池		町田グリア園	653	1990	
本町田 薬師池		町田リス園	637	1988	
忠生		大賀藕絲館	1,064	1989	
忠生		町田市授産センター	1,563	1980	
忠生		ひかり療育園	1,532	1990	
南		わさびだ療育園	678	1997	
忠生		グループホームはるかぜ	153	1989	
相原		町田ゆめ工房	438	1994	
本町田 薬師池		こころみ	496	1987	
町田中 心		町田市せりがや会館	4,065	1968	
本町田 薬師池		木曽福祉サービスセンター	388	1966	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 施設は市内に点在している。
- 〔建物〕 ・ ほぼすべての施設が築 20 年を過ぎており、適切な修繕が課題となる。
- 〔機能〕 ・ 障がい福祉施設のうち、生活介護サービス施設が 2 施設、一般就労が困難な障がい者の働く場が 6 施設、障がい者入居施設が 1 施設、障がい者支援の複合施設が 1 施設ある。
- 〔利用〕 ・ 障がい者の数は年々増加傾向にあり、障がい者手帳所持者数は、2011 年の 1 万 6000 人から 2015 年の 1 万 9000 人と約 1.2 倍となっている。
- 〔運営〕 ・ 1 施設が直営、1 施設が委託、その他 9 施設は指定管理や民間事業者によって運営されている。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 施設設置の義務はない。しかし、障がい者が、日常生活、社会生活を営むことができるよう、必要な自立支援給付及び地域生活支援事業を総合的かつ計画的に行うことが市町村の責務である。

設置目的との整合性

- ・ 当初の設置目的のとおり福祉施設として運用されている。

利用状況の妥当性

- ・ 障がい者の数は年々増加傾向にあり、障がい者手帳所持者数は、2011年の1万6000人から2015年の1万9000人と約1.2倍となっている。

施設の代替性

- ・ 障がい者の生活介護施設等は、民間施設が増加してきている。
- ・ ひかり療育園の訪問サービスや高次能機能障がい相談事業は、市内では、現在行っている民間事業者がいない。

〔現状・課題のまとめ〕

障がい者が、日常生活、社会生活を営むことができるよう、必要な自立支援給付及び地域生活支援事業を総合的かつ計画的に行うことが市町村の責務とされています。障がい者手帳所持者数は、増加しています。また、民間の障がい者の生活介護施設等も増加してきており、自治体でしか担えない事業に力を入れていく必要があります。

▶ 障がい福祉施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 公共や民間の施設に関わらず、様々な場面で適切な支援を受けながら、誰もが社会の一員として、ともに育ち、働き、暮らしていくことができます。



～こんな取り組みも始まっています～

恋する豚研究所

千葉県香取市にある「恋する豚研究所」は、「福祉」という文字を使わずに、高品質の豚肉、ベーコン、ハムなどの製造・販売、レストランでの食事提供を行っており、ビジネスとして成り立たせようとしています。ここでは、障がいのある人が、施設利用者としてではなく、障がいのない人とともに職員として働いています。レストランでの食事をしに、あるいはデザイン性の高いパッケージで売られているおいしい豚肉を買いに、福祉に興味がある人以外も訪れる空間となっています。

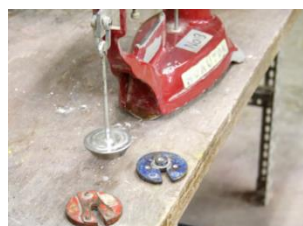


日本理化学工業株式会社

学校で使うチョーク市場の国内シェア 50%以上を占めるトップメーカーですが、社員のうち 70%以上が知的障がい者であり、製造ラインのほとんどを担っています。

障がいをもった社員がそれぞれの理解力で安心して仕事ができる環境づくりにより、皆がやりがいを持ち働くことができ、生産性や経営が維持されています。

働き方に工夫をすることで、福祉施設に限らず一般企業の中で障がい者も戦力となることができます。



制作道具も色を付けるなどの工夫をしている。



市有財産の活用のほか、民間によるサービス提供の活用や民間への移行等により建物の総量圧縮を図りつつ、公共の福祉施設に限らず障がいのある人とない人がともに育ち、働き、暮らすことができる場を維持していく。

- ✓ 施設の譲渡を含め、民間活力の活用策を検討する。また、民間の運営する施設への代替性がある施設については廃止する。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ ひかり療育園は、施設の民間活力の活用策を検討する。[行政経営改革プラン]
- ・ グループホームは、代替性があるため建物は建替えない。
- ・ せりがや会館は必要な一部機能を他施設へ移転し、建物は建替えない。
- ・ 町田ダリア園、町田リス園は、観光施設としての機能も持つため、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画と合わせて活用を検討していく。
- ・ 木曽福祉サービスセンターは、機能を廃校や他の公共施設に複合化し、建物の建替えは行わない。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 維持する施設については、大規模改修や建替えを行う。[継続]

長期（2037～2055 年度）

保健施設の実態・課題

■ 施設概要

保健施設として、保健所中町庁舎を 1 施設、健康福祉会館を 1 施設、市民センター内に保健センターを 2 施設保有しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
忠生	○	忠生保健センター		2015	忠生市民センター
鶴川	○	鶴川保健センター		1985	鶴川市民センター
町田中心	◎	健康福祉会館	4,429	1988	ふれあいもっこ館 ファミリーサポートセンター
町田中心		保健所中町庁舎	1,853	1973	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 保健所中町庁舎と健康福祉会館は近接している。
- 〔建物〕 ・ 保健所中町庁舎をはじめとして、4 施設中 3 施設で施設改修時期を迎えている。
- 〔機能〕 ・ 保健施設には、健診等の医療行為を行うため、診療所として許可取得している区画があり、利用目的は限定されている。
 - ・ 診療所以外の区画の利用については、保健衛生事業に支障のない範囲に限定している。
 - ・ 忠生保健センターに職員は常駐しておらず、事業実施時のみ開館されている。
- 〔利用〕 ・ 忠生保健センターや鶴川保健センターでの集団健診等実施回数は健康福祉会館の 3 分の 1 程度である。
- 〔運営〕 ・ 保健施設はすべて市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 予防接種や健診業務にかかる費用は約 32 億円となっている。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 「地域保健法」の定めるところにより、保健所は政令で定める市が設置することが義務付けられており、健康福祉会館をはじめとする保健所支所はこれに準じている。

設置目的との整合性

- ・ 施設で行われている事業は設置目的と整合しているが、健康福祉会館内の講習室のみ市民集会機能も兼ねている。

利用状況の妥当性

- ・ 忠生保健センターや鶴川保健センターでの集団健診等実施回数は健康福祉会館の3分の1程度である。

施設の代替性

- ・ 巡回健診という形での集団健診は、精密機器を含む多くの機材を用いるため、機材の移送コストや調整の労力等の課題があるものの、現在小山市民センターで実施している。

〔現状・課題のまとめ〕

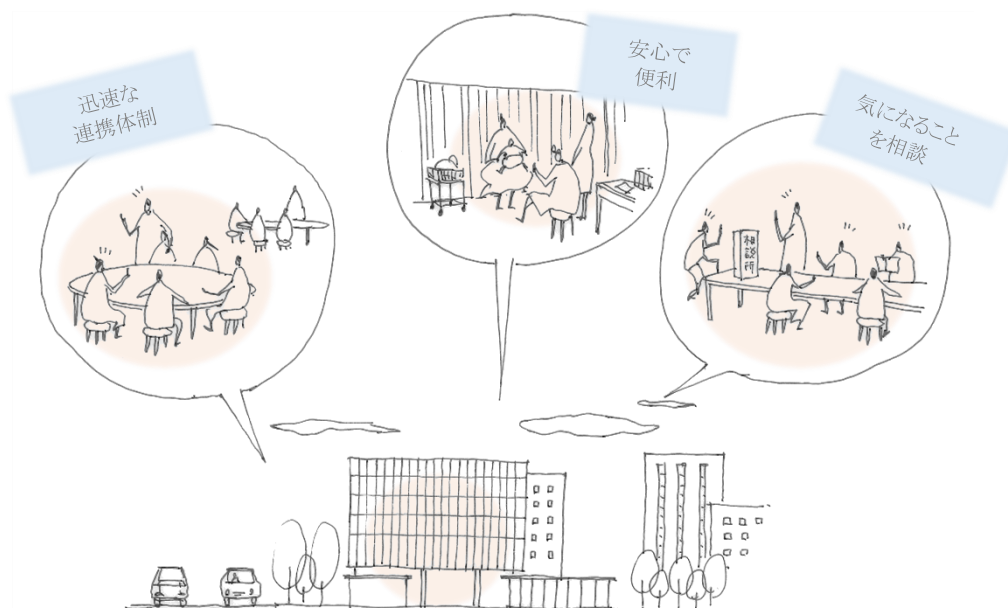
保健所政令市として保健所を設置する義務があります。現在市には町田市保健所中町庁舎及び町田市健康福祉会館のほか、保健センター2箇所が配置されていますが、保健所中町庁舎と健康福祉会館は近接した施設であり、集約を検討していくことが課題です。また健診事業においては、実施におけるコスト等の課題がありますが、出張による実施地域拡大の可能性を検討する必要があります。

▶保健施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 健康福祉会館と保健所中町庁舎の施設集約化により、保健所機能の集中化が図られ、ワンストップサービスによる利便性を高めます。
- 施設の集約により、初期救急提供体制の検討等、医療と保健の連携強化が図られます。



～こんな取り組みも始まっています～

健康サポート薬局

現在、健康サポート機能を有する薬局が誕生しています。これは地域の人々による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する薬局で、具体的には、医薬品等の安全かつ適正な使用に関する助言や、健康の維持・増進に関する相談の受付、また、必要に応じてかかりつけ医や専門機関の紹介等を行っています。健康サポート薬局は、地域の人々の相談役として安心して立ち寄りやすい身近な存在となることが期待されています。



集約化や市有財産等の効果的な活用により建物の総量圧縮や施設利便性の向上を図る。

- ✓ 診療所の区画外を、診療所の事業に支障のない範囲で有効活用する。
- ✓ 建物の建替え時期を捉えて、健康福祉会館と保健所中町庁舎を集約化する。
- ✓ 施設の新たな有効活用による、健診事業等の地域での実施拡大を検討する。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 診療所の区画外を、診療所の事業に支障のない範囲で有効活用する。
- ・ 健康福祉会館と保健所中町庁舎の集約化に向けた検討・調整を進める。
- ・ 健診事業等の出張実施拠点の拡大を検討する。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 健康福祉会館と保健所中町庁舎の集約化を実施する。

長期（2037～2055 年度）

保育園・児童発達支援センターの実態・課題

■ 施設概要

保育を目的とした市立保育園を 5 施設保有しています。その他にも私立の認可保育園が 74 施設、認定こども園が 8 施設あります。

14 年度までに民営化などにより市立保育園を 5 施設に絞り、地域の拠点となる地域子育て相談センターを併設しました。マイ保育園事業の推進のほか、アウトリーチ（出張子育て相談等）を中心に、子育て関連施設の運営支援、専門部署との連携により、地域全体で子育てを支援する体制の充実を図っています。

また、療育・自立支援を目的とした児童発達支援センターとして、すみれ会館があります。ここでは、未就学児を対象にした発達の相談や通園での療育を行っています。通園では、2016 年度に肢体不自由児の受け入れを開始しました。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
相原		こうさぎ保育園	694	1981	
南		金森保育園	869	1998	
鶴川		大蔵保育園	1,083	2010	
本町田 薬師池		山崎保育園	1,204	2013	
町田中心		町田保育園	723	1991	
町田中心		すみれ会館	3,809	1982	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 市域を 5 地域に分け、各地域に 1 施設ずつ配置している。
- 〔建物〕 ・ こうさぎ保育園と町田保育園はそれぞれ築 35 年、築 25 年を経過している。
- 〔機能〕 ・ すべて単独施設であり、機会を捉えた周辺施設との複合化等の検討が課題である
- 〔利用〕 ・ 認可保育所を含む定員数は増加傾向にあり、待機児童数は減少している。一方で、3～5 歳児はすでに定員割れの園が出てきており、中長期的には年少人口の減少からさらに定員割れの保育園が出てくると予想される。
 - ・ すみれ教室は、利用者が急増していましたが、2015 年度は高止まりに転じた。
- 〔運営〕 ・ 市立保育園は直営で運営されており、保育料の改定やサービスの質の向上に努めている。
- 〔コスト〕 ・ 公立保育所事業は年間約 12 億円の行政費用であるが、保育料による収入はその 1 割以下である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律による市立保育園の設置義務はない。保育の確保義務がある。
- ・ 法律による児童発達支援センターの設置の義務はないが、障がい児通所支援等について体制整備及び人材確保・質の向上への努力義務、発達障害の早期発見・早期支援及び切れ目のない支援への責務がある。

設置目的との整合性

- ・ 保育園、児童発達支援センターとして運営されており整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 待機児童解消のため全体の定員数を増やしており、在籍園児数もそれに伴って増加している。一方で、3～5歳児はすでに定員割れの園が出てきており、中長期的には年少人口の減少からさらに定員割れの保育園が出てくると予想される。
- ・ すみれ会館の利用者数は増加していたが、高止まりに転じた。

施設の代替性

- ・ 私立の認可保育園が74施設、認定こども園が8施設ある。

〔現状・課題のまとめ〕

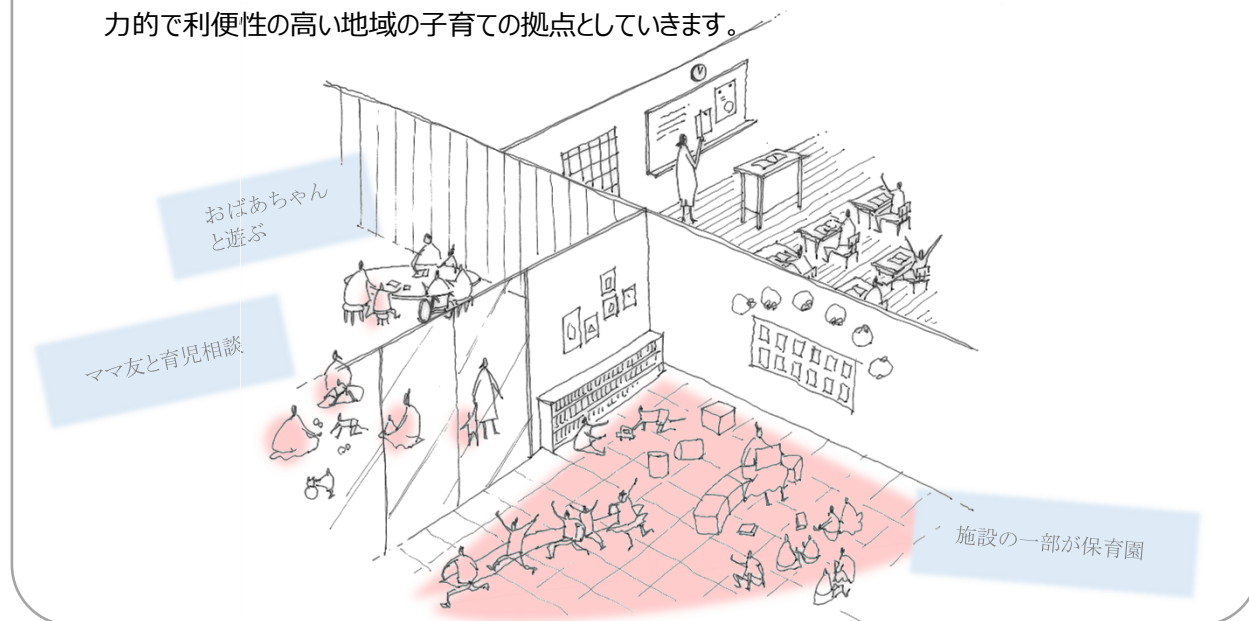
地域子育て相談センターを併設する5つの市立保育園は市が地域全体の子育てを支援する場として、また様々な子ども施策を進める際の手段として維持する必要があります。一方で保育需要としては3～5歳児はすでに定員割れの園が出てきており、中長期的には年少人口の減少からさらに定員割れの保育園が出てくると予想され、市立保育園としては施設規模の縮小を視野に入れた更新が求められます。すみれ教室は、障がい児に関する施策を総合的かつ計画的に推進することが求められており、すみれ教室全体の事業の最適化が課題です。

▶ 保育園・児童発達支援センターの今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆

- 学校等に複合化し、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実することで、保育園等を更に魅力的で利便性の高い地域の子育ての拠点としていきます。

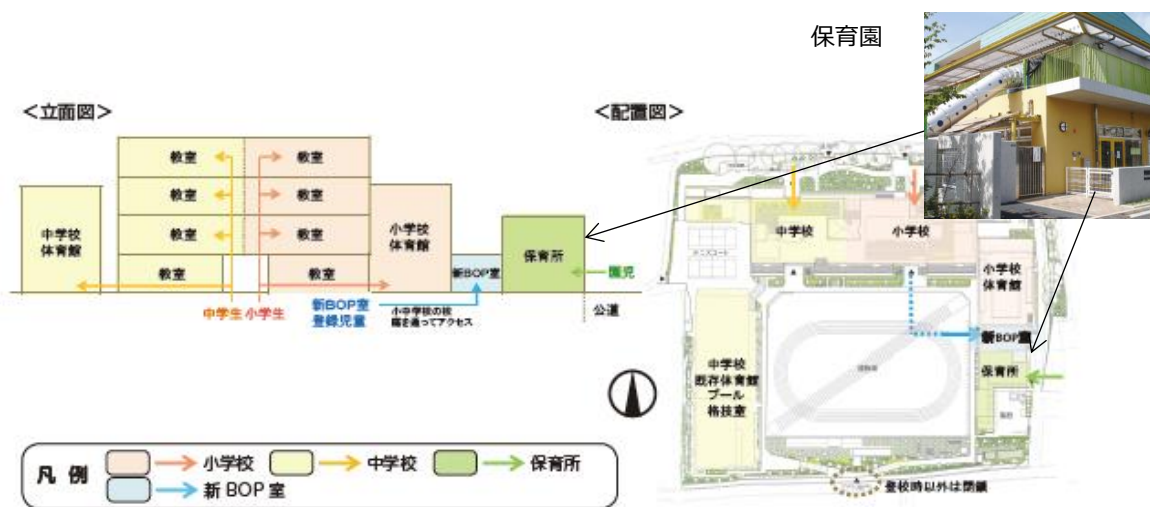


～こんな取り組みも始まっています～

世田谷区八幡山保育園

世田谷区八幡山保育園は、芦花小学校芦花中学校の改築の際、新 BOP 室（学童クラブと子どもの居場所遊び場を統合した施設）とともに一つの建物として複合化し、相互連携する施設となっています。保育園と小中学校との間では、交流活動が実現しています（保育園における中学生の職場体験、小学生による園児への絵本の読み聞かせ）。

また、小学校中学校それぞれに体育館を設けていますが、保育園を含め使いあうとともに、夜間は地域開放をしています。



複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ他機能との連携をさらに深めることでより魅力的な場づくりや充実した支援を行う。

- ✓ 保育園は必要な施設規模に見直し、周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、条件が整ったところから複合化する。
- ✓ 建物は単独機能での建替えは行わない。
- ✓ すみれ教室は、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。

取り組みの時期

短期 （2018～2026 年度） →最初の 9 年間

- ・ 保育園は中期で複合化する際の必要な施設規模を検討する。
- ・ すみれ教室は、認可通園部門の管理・運営手法を見直す[行政経営改革プラン]

中期 （2027～2036 年度）

- ・ 保育園は周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。[継続]
- ・ すみれ教室は、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。

長期 （2037～2055 年度）

子どもセンター・子どもクラブの実態・課題

■ 施設概要

子どもセンター・子どもクラブは、乳幼児とその保護者から 18 歳までの青少年を対象とした施設で、子どもたちの遊び、成長、発達の拠点として様々な活動をしています。

子どもクラブは、子どもセンターより小規模な施設です。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
南		子どもセンターばあん	1,339	1998	
鶴川	◎	子どもセンターつるっこ	1,601	2004	つるっこ学童保育クラブ
相原	◎	子どもセンターばお	1,179	2008	相原たけの子学童保育クラブ
忠生		子どもセンターただON	1,564	2013	
町田中心		子どもセンターまあち	2,021	2015	
小山 小山ヶ丘		子どもセンターばお分館 WAAAO	405	2015	
玉川学園 南大谷	◎	玉川学園子どもクラブ	729	2002	ころころ学童保育クラブ さくらぼホール
玉川学園 南大谷		南大谷子どもクラブ	359	1999	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 子どもセンターは市内 5 地域に 1 施設ずつ、分館と子どもクラブはそれ以外の中学校区単位で配置を進めている。
- 〔建物〕 ・ 新しい施設が多いが、子どもセンターは比較的規模が大きいため施設維持のためには今後計画的な修繕が必要となる。
- 〔機能〕 ・ 5 館が学童保育施設等との複合施設になっている。機能の多くが市民センターやコミュニティセンターと同内容だが、対象者が子どもと保護者に限定されている。
- 〔利用〕 ・ ばおと玉川学園以外の利用者は減少傾向にある。ばあんの利用者が他の子どもセンターに比べて少ない。
- 〔運営〕 ・ 子どもセンターは直営、子どもクラブは指定管理者で運営されている。
- 〔コスト〕 ・ 子どもセンター・子どもクラブは原則利用料が無料である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律による設置義務は無い

設置目的との整合性

- ・ 児童の育成と子育て支援の場として機能しており整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 今後の年少人口の減少や子どもクラブの増設等を踏まえると、現状のままの運営を続けると今後も利用者数の減少が予想される。

施設の代替性

- ・ 児童への遊び場や活動場所の提供については学校等の放課後利用や他の貸館の利用、図書館の自習スペースがあるが全く同様の施設ではない。
- ・ 乳幼児の子育て支援については、保育園での子育て支援事業や図書館の児童用コーナーがあるが、事業や施設の規模が小さい。

〔現状・課題のまとめ〕

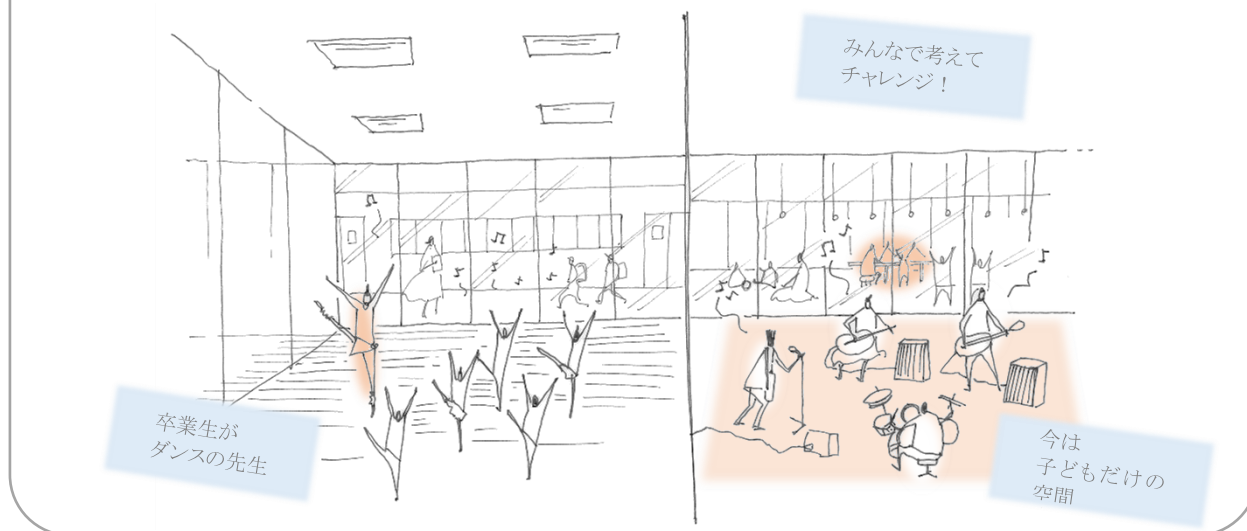
子どもたちの地域への愛着を育む活動拠点として、また乳幼児の子育てを支援する場として機能しており、基幹型施設である5つの子どもセンターの整備が完了しました。今後は距離が離れていて子どもセンターの利用が困難な中学校区に子どもクラブを整備する予定です。一方で、今後の年少人口の減少や子どもクラブの増設等を踏まえると、現状のままの運営を続けると今後は1施設あたりの利用者数の減少が予想されます。また、児童への遊び場や活動場所の提供については学校等の放課後利用があること、乳幼児の子育て支援の場としては保育園での子育て支援事業があること等を踏まえ、子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら子どもを中心とした様々な交流と協働による魅力的な体験活動を展開していくことが課題です。

▶子どもセンター子どもクラブの今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 学校等が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する子どもセンターを他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、更に魅力的で利便性の高い子どもの遊び場や居場所・乳幼児の子育ての場としていきます。

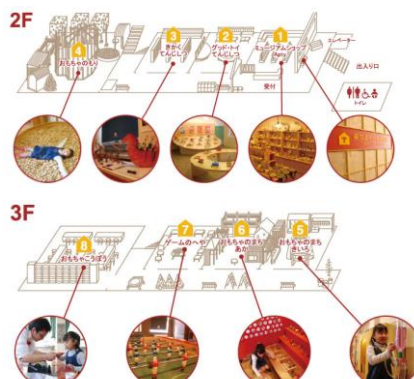


～こんな取り組みも始まっています～

東京おもちゃ美術館

東京都新宿区の旧四谷第四小学校同幼稚園の活用策を区地元町会で検討した結果、2008年にNPO 法人が運営する東京おもちゃ美術館などが開館しました。入館料以外にも「一口館長制度」に基づく寄付の採用やボランティアスタッフである「おもちゃ学芸員」によって成り立っており、遊びと人をつなぐ「おもちゃ学芸員」がいることで、子どもだけではなく親などにとっても豊かな出会いと楽しいコミュニケーション環境を提供しています。

NPO 法人が運営する、
廃校を活用した東京おも
ちゃ美術館



■ 今後の方向性

複・多

L

連携

活用

複合化・多機能化や**市有財産等の活用**により建物の総量を圧縮する一方、他機能との連携をさらに深めることで、子どもの地域への愛着を育む健全育成と乳幼児の子育て支援の場の維持や魅力の向上を図る。

- ✓ 子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら、子どもを中心とした様々な交流と協働による魅力的な体験活動を展開できるようなサービスのあり方を検討する。
- ✓ 子どもセンターは中長期的には周辺の公共施設の更新時期を捉えて複合化し、単独での建物の建替えは行わない。その際、児童が自由に来館し、遊べる環境の確保、セキュリティへの配慮、乳幼児の保護者も利用しやすいようなつくりに留意する。
- ✓ 子どもクラブの増設は新たな建物を建てる方法だけではなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。また、今後の年少人口の減少を踏まえて、整備費用やその後の維持管理費用が少ない手法や建物の可変性等の工夫を検討する。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら、新たな出会いの場や魅力的な体験の提供ができるようなサービスのあり方を検討する。
- ・ 子どもクラブの増設は新たな建物を建てる方法だけではなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。また、今後の年少人口の減少を踏まえて、整備費用やその後の維持管理費用が少ない手法や建物の可変性等の工夫を検討する。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 子どもセンターは周辺の公共施設の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化し、単独での建替えはしない。その際、子どもが自由に来館し、遊べる環境の確保、セキュリティへの配慮、乳幼児の保護者も利用しやすいようなつくりに留意する。【継続】

長期（2037～2055 年度）

学童保育クラブの実態・課題

■ 施設概要

学童保育クラブは、保護者が日中不在になる家庭の児童を預かり、適切な遊びと生活の場を提供して、その健全な育成を図るところです。小学校 1 年生から 3 年生まで（障がいのある児童は 6 年生まで）で市内に在住している児童が対象となっています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
玉川学園 南大谷	○	ころころ学童保育クラブ	87	2002	ころころ児童館 さくらんぼホール
町田中心		中央学童保育クラブ	305	1998	
町田中心		学童 2 1 保育クラブ	145	2000	
町田中心		森野学童保育クラブ	262	2001	
玉川学園 南大谷		高ヶ坂学童保育クラブ	137	1992	
玉川学園 南大谷		南大谷学童保育クラブ	245	2012	
本町田 薬師池		藤の台学童保育クラブ	105	1989	
本町田 薬師池		本町田学童保育クラブ	223	2002	
成瀬		そよかぜ学童保育クラブ	232	2011	
成瀬		金森学童保育クラブ	231	2013	
南		どろん子学童保育クラブ	248	2004	
南		鶴間ひまわり学童保育クラブ	300	2003	
成瀬		なんなる学童保育クラブ	260	2002	
南		南つくし野学童保育クラブ	227	2006	
北部の丘 陵		野津田学童保育クラブ	371	2014	
鶴川		鶴川第二学童保育クラブ	232	2006	
鶴川		鶴川学童保育クラブ	141	1991	
鶴川		鶴川第四学童保育クラブ	264	2002	
鶴川		金井学童保育クラブ	238	2007	
鶴川		大蔵学童保育クラブ	275	1999	
鶴川		みわっこ学童保育クラブ	298	2017	
北部の丘 陵		小山田学童保育クラブ	199	2005	
北部の丘 陵	○	桜の森学童保育クラブ		2017	小山田南小 学校
忠生		木曽学童保育クラブ	283	2010	
忠生		木曽境川学童保育クラブ	210	2001	
本町田 薬師池		七国山学童保育クラブ	293	2003	
忠生		山崎学童保育クラブ	240	2014	
小山 小山ヶ丘		小山学童保育クラブ	355	2007	

小山 小山ヶ丘		小山ヶ丘学童保育クラブ	403	2004	
成瀬		高ヶ坂けやき学童保育クラブ	237	2008	
南		つくし野学童保育クラブ	262	2008	
忠生		図師学童保育クラブ	288	2008	
小山 小山ヶ丘		小山中央学童保育クラブ	498	2009	
鶴川	○	つるっこ学童保育クラブ		2004	こどもセンターつるっこ
相原	○	相原たけの子学童保育クラブ		2008	こどもセンターぱお
本町田 薬師池	○	竹ん子学童保育クラブ		1965	町田第三小学校
本町田 薬師池	○	藤の台ポケット組学童保育クラブ		1972	藤の台小学校
南	○	南第一さくら学童保育クラブ		1965	南第一小学校
南	○	わんぱく学童保育クラブ		1974	小川小学校
成瀬	○	すまいる学童保育クラブ		1974	成瀬台小学校
成瀬	○	成瀬中央あおぞら学童保育クラブ		1979	成瀬中央小学校
忠生	○	なかよし学童保育クラブ		1966	忠生小学校
相原	○	大戸のびっ子学童保育クラブ		1983	武蔵岡中学校

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 1 小学校区に 1 学童保育クラブを配置しており、児童の登降所の安全を確保するため、小学校内・小学校隣接地への移設を完了した。
- 〔建物〕 ・ 今後は一斉に老朽化が進む。
- 〔機能〕 ・ 児童数の増加に伴う、育成スペースの狭あい化が進む。
- 〔利用〕 ・ 年々入会児童数が増加している。
- 〔運営〕 ・ 43 施設中 39 施設が指定管理により運営されている。
- 〔コスト〕 ・ 利用者が負担する育成料が行政費用の 2 割未満となっている。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律による設置義務はない。
- ・ 児童の健全な育成に資するため、地域の実情に応じた放課後児童健全育成事業を行うとともに、利用の促進に努めなければならないと法律に定められている。

設置目的との整合性

- ・ 児童の健全な育成、保護者の働く環境づくりという点で整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 入会児童数は毎年増加しており、狭あい化が進む学童保育クラブがある。

施設の代替性

- ・ 放課後子ども教室、民間の類似施設、保育園・幼稚園で行っている学童一時預かり等があるが、利用料金が高い、利用定員が少ない等から代替性が低い。

〔現状・課題のまとめ〕

入会児童数が毎年増加することで施設が狭あい化し、保育スペースの拡大が必要な学童保育クラブが複数あり、全体的にも施設の老朽化が進行しています。

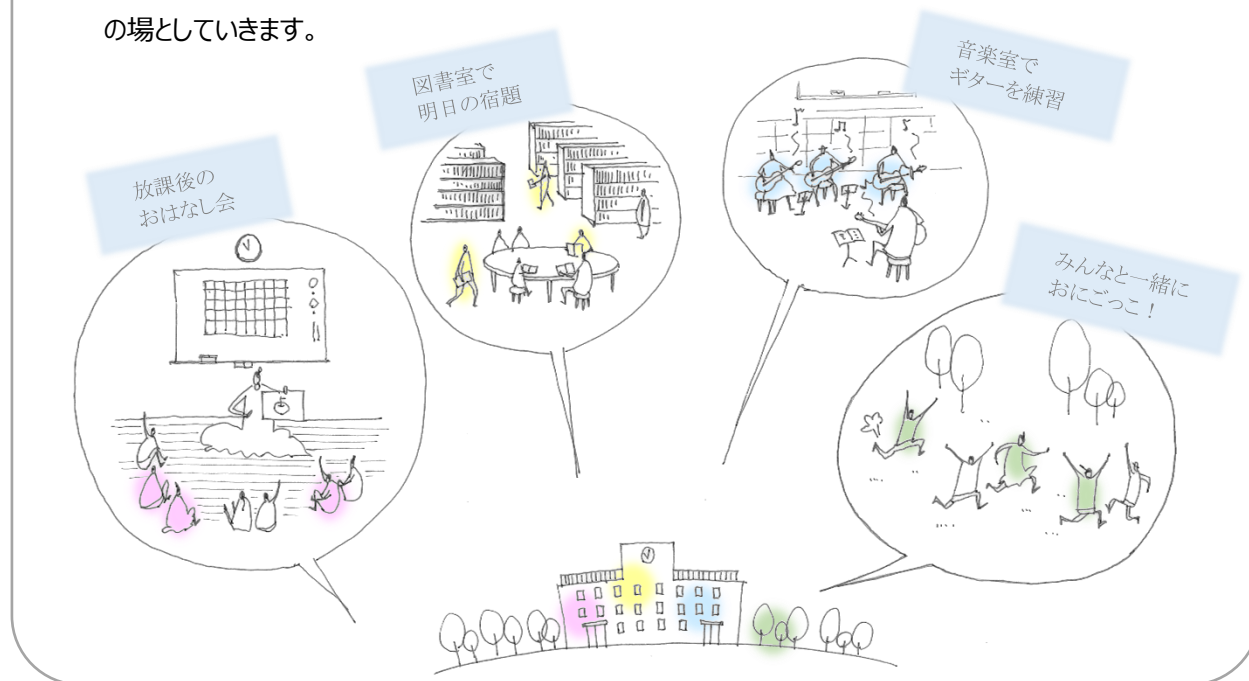
管理責任や運営責任を明確化にしつつ、教育活動で使用しない教室の活用や、放課後の教室等の未利用時間の活用を促進し、保育スペースの確保や、老朽化に対応していくことが課題です。

▶学童保育クラブの今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 学校が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する学童保育クラブを、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、より安全・安心に加えて魅力的で利便性の高い児童の育成の場としていきます。



～こんな取り組みも始まっています～

埼玉県吉川市 美南学童保育クラブ

学童保育室をはじめ、高齢者ふれあい施設、公民館、子育てセンターなど、乳幼児から高齢者まで、様々な年代が利用する施設を、地域のニーズを踏まえ、小学校に複合化しています。小学校の特別教室や体育館は地域開放することを前提に整備しています。



子育て世代・共働き世代が増加する地域の実情に応じた施設を整備
(左：子育て支援センター、右：学童保育室)



デイサービスでは小学校の給食を提供



学校教育の活動時間外に体育館を地域に開放

<立面図>



凡 例

小学校	学童	公民館
地域	老人福祉施設	子育て支援センター

■ 今後の方向性

複・多

活用

地域の拠点となる学校に**複合化・多機能化**することで、建物の総量圧縮を図る他、学校施設の活用により多様な活動が可能となり、魅力が向上する。

- ✓ 保育スペースが不足する学童保育クラブを拡張する際や、学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化し、建物は単独機能での建替えは行わない。

取り組みの時期

短期 （2018～2026 年度） →最初の 9 年間

- ・ 放課後に使用しない教室等を利用する際に必要になる運用のルールや施設整備の内容等を検討する。
- ・ スペースの拡大が必要な学童保育クラブを拡張する際や、学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化し、建物は単独機能での建替えは行わない。【継続】

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

スポーツ施設の実態・課題

■ 施設概要

体育館を 2 施設と室内プールを 1 施設、その他、球場や陸上競技場、クラブハウス等を保有しています。なお、市内小中学校では体育館、校庭、学校温水プールの開放を行っており、体育館は 51 校、校庭は 53 校、学校温水プールは 3 校で開放されています。(2015 年度)

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
成瀬		総合体育館	24,767	1990	
忠生		室内プール	8,344	1989	
町田中心		サン町田旭体育館 (町田中央公園)	7,966	2000	
北部の丘陵		小野路球場 (小野路公園)	3,638	2010	
北部の丘陵		陸上競技場 (野津田公園)	16,314	1990	
成瀬		成瀬クリーンセンター テニスコートクラブハウス	248	1997	
町田中心		町田第四小学校 クラブハウス	119	2014	
相原		武蔵岡中学校 クラブハウス	121	2013	
玉川学園 南大谷		南大谷小学校 クラブハウス	130	2015	
忠生	○	教育センタークラブハウス		1972	教育センター
町田中心		町田第一中学校温水プール		1992	※スポーツ開放
南		南中学校温水プール		1998	※スポーツ開放
北部の丘陵		鶴川中学校温水プール		2001	※スポーツ開放

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 大規模施設であるため条件等で配置場所に限りがある。
- 〔建物〕 ・ 施設規模の大きい、総合体育館、室内プール、が施設改修時期を迎えている。
- 〔機能〕 ・ 体育館やプールなど学校施設のスポーツ開放を行うことでサービスの充実を図っている。
- 〔利用〕 ・ 体育館・プールはトレーニング室の利用者も多い。
・ 体育館・プールの利用料収入は、駐車場収入が全体の 3 割弱を占めている。
・ 陸上競技場と小野路球場の年間利用者数は増加傾向である。
- 〔運営〕 ・ スポーツ施設の多くは指定管理者により運営している。
- 〔コスト〕 ・ スポーツ施設の年間の行政費用として総合体育館は 4.3 億円、室内プールは 2.5 億円、クラブハウスが 1 千万円である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 「スポーツ基本法」で地方公共団体は、スポーツ施設整備に努めることとしており、条例により設置している。

設置目的との整合性

- ・ スポーツ施設として運営されており整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 体育館利用の個人利用の大半はアリーナ利用とトレーニング室利用が多くを占めているが、利用者の少ない諸室もある。
 - ・ 学校温水プール3校の利用者合計は年間約4万人で、室内プールの年間利用者数は約30万人である。
 - ・ 総合体育館・室内プールともに駐車場収入が利用料収入の3割弱を占めている。
 - ・ 陸上競技場・小野路球場の利用者数は近年増加している。

施設の代替性

- ・ 市内に大きな大会を行えるような大型の体育館やプール、競技場、球場は他にない。
- ・ 学校教育に支障のない範囲で、学校の体育館、校庭、温水プールのスポーツ開放を実施している。
 - ・ トレーニングジムやプールは市内にも民間事業者施設がある。

〔現状・課題のまとめ〕

スポーツ施設は、大会利用や多くの市民利用のため利用枠に空きがない状況です。学校の体育館やグラウンド等でも、学校教育に支障のない範囲でスポーツ開放を実施していますが、より多くの市民がスポーツに親しめる環境づくりが求められています。

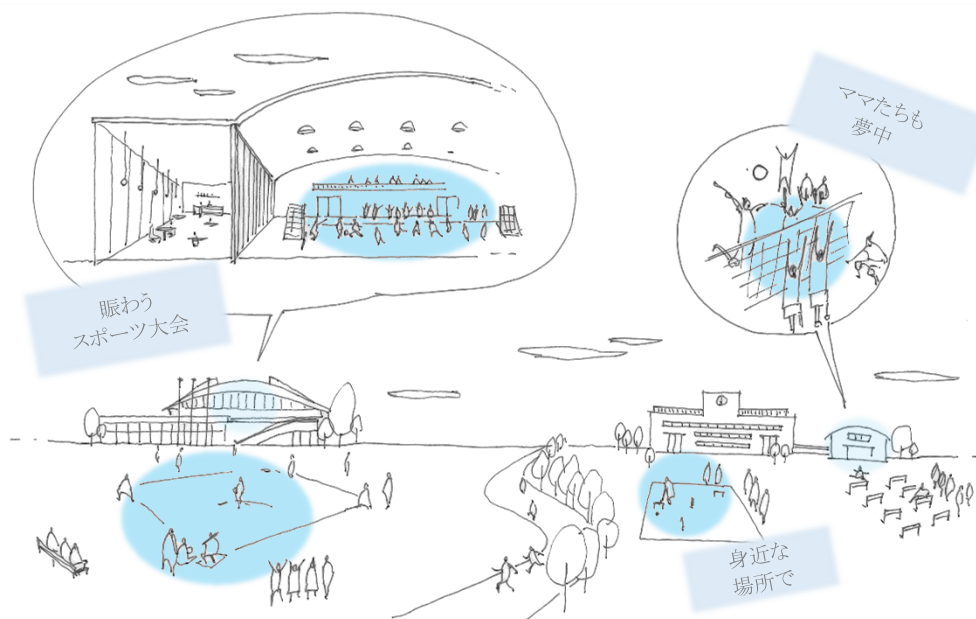
また、施設の運営においては、民間ノウハウを効果的に活用し、収益性を向上させていくことが課題です。

▷スポーツ施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆㊿

- 地域の活動拠点となる学校でのスポーツ活動が盛んになることで、より多くの人にスポーツに触れる機会を提供します。
- 施設運営に民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な観点で管理運営できるのと同時に、これまで以上に魅力的な付加サービスを実現します。



～こんな取り組みも始まっています～

石川県かほく市立宇ノ気体育館

石川県かほく市立宇ノ気体育館は、市立宇ノ気中学校の体育館と市民が利用する社会体育施設の機能を兼ねた施設です。指定管理者として総合型地域スポーツクラブが管理運営を行っており、授業や部活動にも総合型スポーツクラブが協力するなど連携による学校の教育活動の活性化等の効果が生まれています。

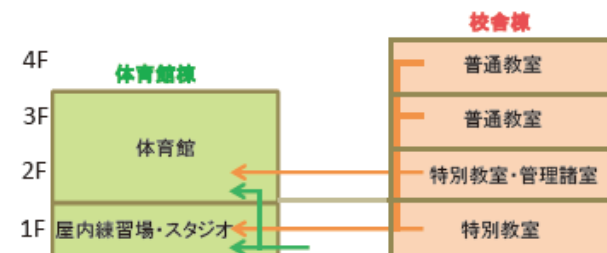


指定管理者が常駐する受付



指定管理者が設置した
利用者のためのカフェ

<立面図>



凡 例 → 中学校 → 地域 社会体育施設

■ 今後の方向性

集約

長

P P

活用

集約化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮しつつスポーツ活動の場や機会を確保し、民間ノウハウを効果的に取り入れることでさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。

- ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。
- ✓ 利用料金の見直しや、民間ノウハウを活かした管理運営等により、収益性を向上させる。
- ✓ 学校等の既存施設や遊休地の効果的な活用を図る。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 収益性向上に向けた対策を検討し実施する。[継続]
- ・ 学校等の既存施設や遊休地の効果的な活用を図る。[継続]

中期（2027～2036 年度）

- ・ 体育館の個人・団体利用の機能を各学校体育館に分散化する。
- ・ 施設の利用状況等を鑑みて、施設の集約化を検討する。

長期（2037～2055 年度）

- ・ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。

レクリエーション・観光施設の実態・課題

■ 施設概要

青少年教育施設を 2 施設、その他レクリエーション・観光施設を 4 施設保有しており、また長野県に宿泊施設を 1 施設保有しています。

ひなた村は、青少年やその指導者・育成者に対し、団体活動への支援や各種講座・イベントの開催、施設開放などを通して、「あそび」と「創造」の場と機会を提供しています。

小野路宿里山交流館は、小野路の歴史・自然・文化にふれられる拠点施設で、地域住民と来館者との交流を促進する場として、また小野路の里山を散策する方の休憩の場としてどなたでも無料で利用できます。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
市外		町田市自然休暇村	2,894	1989	
相原		大地沢青少年センター	4,438	1990	
本町田 薬師池		青少年施設ひなた村	2,349	1993	
本町田 薬師池		七国山ファーマーズセンター	326	1993	
南		金森市民農園管理棟	30	1994	
忠生		忠生市民農園管理棟	32	1996	
北部の丘陵		小野路宿里山交流館	475	2013	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 公園内や旧宿場町にあり、周辺環境の魅力を活かした配置がされている。
- 〔建物〕 ・ 築 20 年前後の施設がほとんどであり、修繕時期が重なることが想定される。
- 〔機能〕 ・ 自然休暇村と大地沢青少年センター、大地沢青少年センターとひなた村は一部の機能に重複がある。
- 〔利用〕 ・ 利用者数はどの施設も横ばい傾向にある。一部施設は利用者が低迷している。
- 〔運営〕 ・ 直営が 4 施設、指定管理が 3 施設ある。
- 〔コスト〕 ・ 自然休暇村、大地沢青少年センター、ひなた村の行政費用と収入の差は 1 億円以上である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律等による設置義務はない。
- ・ 特に宿泊施設は関与の必要性が低い。

設置目的との整合性

- ・ 各施設とも当初の設置目的と整合している。
- ・ 大地沢青少年センターは土砂災害特別警戒区域に指定されたため、安全性を考慮する必要がある。

利用状況の妥当性

- ・ 自然休暇村や七国山ファーマーズセンターは利用者数が年間 1 万人程度であり、少ない。
- ・ 自然休暇村、青少年センターは、利用者 1 人当たり 1 万円超の費用がかかっているため、受益者負担のあり方の見直しや収入源の確保等が求められる。

施設の代替性

- ・ 宿泊施設は民間による多様な施設が全国に存在し、代替が可能。
- ・ 青少年センターの日帰り機能とひなた村の機能が重複している。
- ・ 民間の市民農園がある。

〔現状・課題のまとめ〕

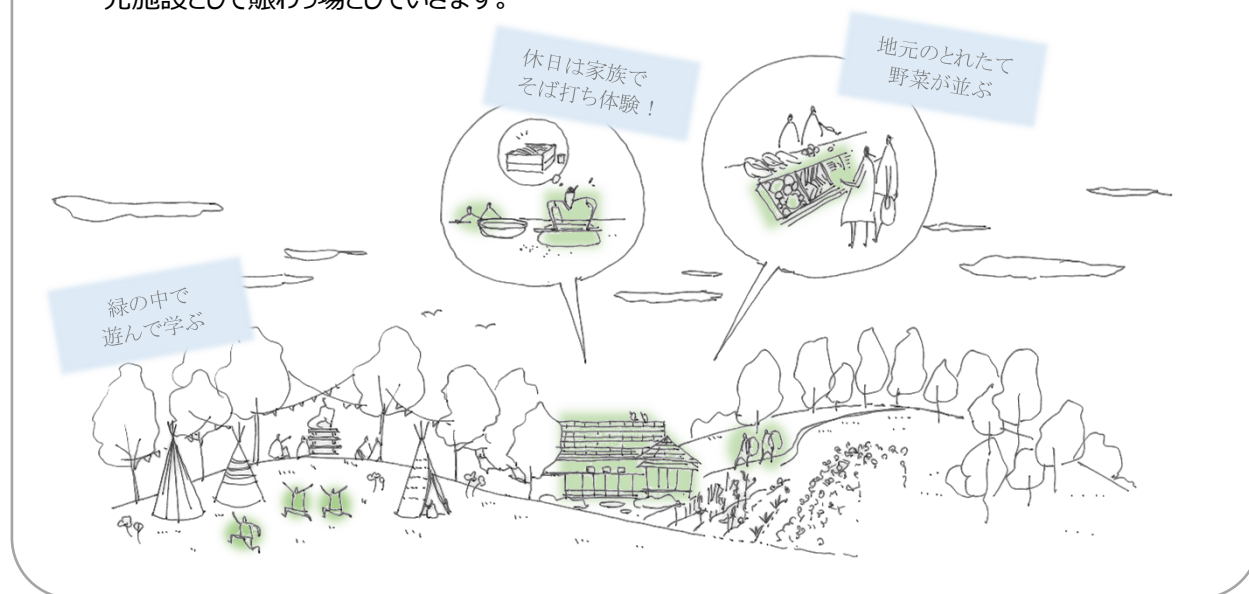
いずれも法律等による設置義務は無い施設であり、相対的に行政関与の必要性が低い施設が多くなっています。利用状況については横ばいで、集客施設の中には低迷している施設も見られます。宿泊施設は民間による多様な施設が全国に存在すること、市民農園についても民間が開設・運営するものがあり、代替が可能です。また、自然休暇村、青少年センターは、利用者 1 人当たり 1 万円超の費用がかかっています。既に指定管理制度を導入している施設を含め、全ての施設について更に民間の発想やノウハウを取り入れながら集客力を高め、効果的で効率的な運営を実現することが課題です。なお、大地沢青少年センターは土砂災害防止法の特別警戒区域等に指定されたため、施設の抜本的な見直しが必要になっています。

▷レクリエーション・観光施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- ・ 民間活力の導入や更なる活用により、これまで以上に満足度の高い施設へ転換し、レクリエーションや観光施設として賑わう場としていきます。



～こんな取り組みも始まっています～

千葉市豊砂公園、静岡県富士山こどもの国

民間事業者が主体となって公園施設を管理することにより、利用者の増加、賑わいの創出などが実現されています。



【豊砂公園】大型スーパー事業者が、千葉市から管理許可を受けて、周辺の商業施設と一体となって公園を運営するとともに、イベントの開催による収益を維持管理費の財源に活用している。



【富士山こどもの国】富士サファリパークを運営する民間事業者が指定管理者として運営、自然を活かした多様な遊び、自然の豊かさを学ぶ場、地域や利用者が交流できる場等の提供がなさ、利用者を増やした。

事業の見直しや複合化・多機能化等により建物総量の圧縮を図る一方、民間や市民等の活力によりさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。

- ✓ 自然休暇村は収入源確保の取り組みを進める。
- ✓ 大地沢青少年センター土砂災害特別警戒区域への指定及び施設老朽化を踏まえ、躯体自体（ハード）及び実施事業（ソフト）の両面から事業を見直す。
- ✓ ひなた村は役割を再検討し、事業を見直す。施設の管理運営については、民間活力の導入や、市民との協働等の手法の検討を進めるなど、新たな付加価値を創出するとともに、効率的な運営を行う。
- ✓ ひなた村のホールなどの集会機能は、周辺の学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化し、建物の建替えは行わない。
- ✓ 七国山ファーマーズセンターは、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、民間のノウハウを活用することを含め運営方法を検討する。
- ✓ 市民農園の休憩室や倉庫は、附属施設として活用をする。
- ✓ 小野路宿里山交流館は、適切に維持管理する。
- ✓ 集客施設の建替えや新たな施設整備等をする場合は民間による手法を導入する。

取り組みの時期

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 自然休暇村は収入源確保の取り組みを進める。
- ・ 大地沢青少年センターは、土砂災害特別警戒区域への指定及び施設老朽化を踏まえ、躯体自体（ハード）及び実施事業（ソフト）の両面から事業を見直す。[行政経営改革プラン]
- ・ ひなた村は役割を再検討し、事業を見直す。施設の管理運営については、民間活力の導入や、市民との協働等の手法の検討を進めるなど、新たな付加価値を創出するとともに、効率的な運営を行う。[行政経営改革プラン]
- ・ 七国山ファーマーズセンターは、薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、民間のノウハウを活用することを含め運営方法を検討する。

中期（2027～2036 年度）

- ・ ひなた村のホールなどの集会機能は、周辺の学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化する。

長期（2037～2055 年度）

産業系施設の実態・課題

■ 施設概要

市では、産業系施設を 3 施設保有しています。プラザ町田は、市と株式会社町田まちづくり公社が共同所有している施設で、5 階から 7 階は町田市文化交流センターとして貸部屋事業等を行っています。

町田ターミナルプラザは、市と東京急行電鉄株式会社が共同所有している施設で、1 階がバスターミナル、2 階が店舗、市民広場及び駐輪場となっています。

町田新産業創造センターは、インキュベーション施設です。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		プラザ町田	4,134	2000	ビル内一部所有
町田中心		町田新産業創造センター	1,939	2003	
町田中心	◎	町田ターミナルプラザ	6,549	1983	自転車等駐車場

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 3 施設とも町田駅から近い。
- 〔建物〕 ・ 町田新産業創造センターは、旧庁舎を転用利用している。プラザ町田、町田ターミナルプラザの修繕については共同所有者と共に施設維持のための修繕工事をしている。
- 〔機能〕 ・ 3 施設とも異なった機能を持っている。
 - ・ 新産業創造センターには、起業支援機能として創業者用の個室やブース、賃貸オフィスが入っている。プラザ町田（文化交流センター）は、様々な広さの貸し部屋を保有しており、町田ターミナルプラザには、バスターミナル、市民広場、貸し店舗がある。
- 〔利用〕 ・ 新産業創造センター個室入居率は、ほぼ 100%である。プラザ町田（文化交流センター）の稼働率は 5 割程度である。町田ターミナルプラザの市民広場利用件数は、年間 150 件程度である。また、店舗には空きがあり、バスターミナルの観光バス利用台数も減少している。
- 〔運営〕 ・ 3 施設すべて運営形態が異なっている。
 - ・ 新産業創造センターについては株式会社によって運営されている。
- 〔コスト〕 ・ 新産業創造センターの行政収入の 94%は国庫支出金である。また、相場より安い賃借料で個室が借りられる。プラザ町田（文化交流センター）は使用料が市内の他貸し施設に比べて高くなっている。町田ターミナルプラザは、貸付による収入がほとんどを占めている。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律等による設置義務はない。

設置目的との整合性

- ・ 新産業創造センター、プラザ町田（文化交流センター）は、当初の設置目的と整合している。
- ・ 町田ターミナルプラザの貸し店舗は、もともと隣接する商業ビルに対しての飲食店舗という位置づけであったが、現在は物販店も対象として店舗を募集している。

利用状況の妥当性

- ・ 新産業創造センターの個室の入居率は常に 100%を維持している状況であり、今後の需要も見込める。
- ・ プラザ町田（文化交流センター）の稼働率はほとんどの部屋が 5 割程度である。
- ・ 町田ターミナルプラザには空き店舗がある。また、バスターミナルの観光バス利用台数が減少している。

施設の代替性

- ・ 新産業創造センターのように市内の起業支援に特化した施設は他にない。
- ・ 貸し館機能を保有している施設は公共・民間ともに多くある。

〔現状・課題のまとめ〕

産業系施設は町田駅周辺に集中しています。それぞれの施設が周辺環境や社会ニーズの変化に対応していく必要があります。

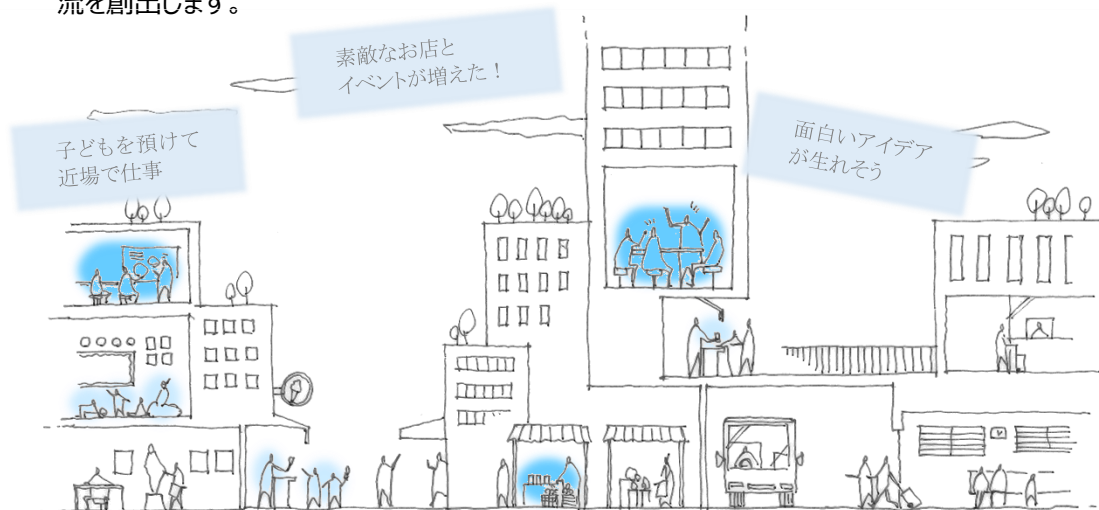
町田ターミナルプラザの貸し店舗は、さらなる活用が課題であり、バスターミナルでは、観光バスの利用台数が減少していることから利用台数に見合った運営体制の構築などが課題となっています。プラザ町田（町田市文化交流センター）については、貸し館機能を保有している施設は公共・民間ともに多くあること、稼働率はほとんどの部屋が 5 割程度であることから抜本的な見直しが必要です。町田新産業創造センターについては、創業を希望する方がより創業しやすい環境作りが課題となっています。

▶産業系施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆彡

- 民間活力を導入することによって、より多くの起業家の創出や、若い世代が活躍する魅力的な機会や場を創出します。現状にとらわれずに機能を見直していくことによって、収益増加を図るとともに、賑わいや交流を創出します。



～こんな取り組みも始まっています～

世田谷ものづくり学校

世田谷ものづくり学校は、民間事業者が廃校となった中学校校舎を世田谷区から借り受け、再生活用した施設です。初期投資、資金調達、テナント募集等のリスクを民間事業者が負担し、自律的な運営を実施しています。「デザイン建築映像食アートファッション」などさまざまな分野のクリエイターがオフィスとして活用している他、ギャラリー、撮影スタジオ、デジタルものづくり機器等が使える部屋も設置しています。また、創業まもないクリエイターを対象とした廉価のオフィスの提供、コワーキングスペースの設置も行っています。週末を中心にワークショップ、展示、セミナーなども開催され、ものづくり体験や交流の場としても機能しています。



廃校を活用した施設



起業支援を目的としたワークスペース



ものづくりの支援設備

事業の見直し、**複合化・多機能化**、さらなる**民間活力の導入**により施設総量の圧縮を図る他、さらなる収益の増加や運営の効率化を図るとともに賑わいや交流を創出する。

- ✓ 町田新産業創造センターの建物を建替える際には、民間活力の導入を進めるとともに、他の産業支援機能等と複合化する。
- ✓ プラザ町田（町田市文化交流センター）は、中心市街地全体の貸し会議室機能の需要動向を見ながら、廃止も含めた抜本的な見直しを行い、収益増加を図る。
- ✓ 町田ターミナルプラザは、空き店舗の用途変更も含めた活用や観光バスの利用台数に見合った運営体制の構築など収支のバランスを取る。建替えの際には、民間活用を含めた検討を行う。

取り組みの時期

短期 （2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 町田新産業創造センターの建物を建替える際には、民間活力の導入を進めるとともに、複合化する。
- ・ プラザ町田（町田市文化交流センター）は、中心市街地全体の貸し会議室機能の需要動向を見ながら、廃止も含めた抜本的な見直しを行い、収益増加を図る。【継続】
- ・ 町田ターミナルプラザは、空き店舗の用途変更も含めた活用や観光バスの利用台数に見合った運営体制の構築など収支のバランスを取る。建替えの際には、民間活用を含めた検討を行う。【継続】

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

☆以下☆ 簡易

ここから先の機能については、再編後のイメージ例や事例等がない簡易バージョンでの掲載を予定しています。
(将来のすがた・あり方について再編の影響があまりないもの)

防災施設の実態・課題

■ 施設概要

防災施設として消防団器具置場を 38 施設、災害備蓄倉庫等を 6 施設保有しています。消防器具置場にはポンプ車をはじめとした消防器具が格納されており、第 1 分団第 1 部 2 小隊消防器具置場には集会施設である原町田六丁目若葉会館が複合化されています。災害備蓄倉庫には災害時に必要となる毛布等の備蓄物資が保管されています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		消防器具置場第 1 分団 第 1 部 1 小隊	158	2008	
町田中心		消防器具置場第 1 分団 第 1 部 2 小隊	175	1988	
本町田 薬師池	◎	消防器具置場第 1 分団 第 2 部	66	1984	原町田六丁目若葉会 館
町田中心		消防器具置場第 1 分団 第 3 部	142	2007	
町田中心		森野一丁目災害備蓄倉 庫	30	2014	
玉川学園 南大谷		消防器具置場第 1 分団 第 4 部	75	1991	
玉川学園 南大谷		消防器具置場第 1 分団 第 5 部	98	2001	
南		消防器具置場第 2 分団 第 1 部	68	1985	
南		消防器具置場第 2 分団 第 2 部	75	1990	
南		消防器具置場第 2 分団 第 3 部	95	2002	
南		消防器具置場第 2 分団 第 4 部	76	1993	
南		消防器具置場第 2 分団 第 5 部	69	1986	
南		消防器具置場第 2 分団 第 6 部	76	1988	
南		つくし野災害備蓄倉庫	200	1991	
成瀬		消防器具置場第 2 分団 第 7 部	91	2010	
成瀬		消防器具置場第 2 分団 第 8 部	174	1996	
北部の丘陵		消防器具置場第 3 分団 第 1 部	119	1988	
北部の丘陵		消防器具置場第 3 分団 第 3 部	69	1986	

鶴川		消防器具置場第3分団 第4部	69	1987	
鶴川		消防器具置場第3分団 第5部	91	2008	
鶴川	◎	消防器具置場第3分団 第6部	208	2005	鶴川災害備蓄倉庫
鶴川		鶴川災害備蓄倉庫		2005	
鶴川		消防器具置場第3分団 第7部	92	2002	
鶴川		消防器具置場第3分団 第8部	80	1995	
鶴川		消防器具置場第3分団 第9部	41	1977	
鶴川		消防器具置場第3分団 第10部	44	1977	
忠生		消防器具置場第4分団 第1部	85	1997	
本町田 薬師池		消防器具置場第4分団 第2部	69	1986	
本町田 薬師池		消防器具置場第4分団 第3部	128	1993	
忠生		消防器具置場第4分団 第4部	76	1993	
忠生		消防器具置場第4分団 第5部	97	2004	
忠生		消防器具置場第4分団 第6部	100	2014	
忠生		消防器具置場第4分団 第7部	87	2001	
忠生		消防器具置場第4分団 第8部	95	2003	
小山 小山ヶ丘		消防器具置場第5分団 第1部	68	1987	
小山 小山ヶ丘		消防器具置場第5分団 第2部	91	2011	
小山 小山ヶ丘		消防器具置場第5分団 第3部	76	1991	
相原		消防器具置場第5分団 第4部1小隊	52	1981	
相原	◎	消防器具置場第5分団 第4部2小隊	227	1994	相原災害備蓄倉庫
相原		相原災害備蓄倉庫		1994	
相原		消防器具置場第5分団 第5部	98	2007	
相原		消防器具置場第5分団 第6部	57	1984	
忠生		忠生4丁目防災倉庫	60	1998	
忠生	○	忠生(2丁目)防災備蓄倉庫		1986	コミュニティセンター忠生

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 消防器具置場は消防団各部隊に 1 つずつ、災害備蓄倉庫は地区に 1 つずつ配置されている。
- 〔建物〕 ・ 築 30 年以上を経過した施設が複数ある。
- 〔機能〕 ・ 消防器具置場にはポンプ車をはじめとした消防器具が格納されている。
・ 災害備蓄倉庫には災害時に必要となる毛布等の備蓄物資が保管されている。
- 〔利用〕 ・ 現在の災害備蓄倉庫の大きさでは目標とする備蓄量を保管するための面積が不足している。
- 〔運営〕 ・ 消防器具置場は各消防団の運営、災害備蓄倉庫は市の直営である。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 「消防組織法」で、市における消防を十分に果たすべき責任を有すると規定している観点からも、消防団とその活動にかかる費用を市で負担する必要性がある。
- ・ 「災害対策基本法」では、防災に必要な物資及び資材の備蓄等を防災予防責任者に義務付けている。

設置目的との整合性

- ・ 設置目的に沿った利用実態があり、整合性している。

利用状況の妥当性

- ・ 有事の際に必要な施設である。
- ・ 現在の災害備蓄倉庫の大きさでは目標とする備蓄量を保管するための面積が不足している。

施設の代替性

- ・ 災害備蓄倉庫においては、いかなる時でも施設が利用できる環境が確保でき、かつコストメリットがあれば、民間倉庫等での代替の可能性がある。
- ・ 消防器具置場においては、消防ポンプ車の緊急出場や消防団員の訓練等があることから、施設再編の際には施設周辺への安全性の確保や、騒音等の問題、緊急出動の際の影響を十分に考慮した再編を検討しなければならない。

〔現状・課題のまとめ〕

「消防組織法」「災害対策基本法」に基づき防災施設を整備しています。火災や災害に備えるためにはいかなる時でも施設が利用できる環境を確保していく必要があります。

▶ 防災施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

長

活用

災害から市民の生命を守るための施設として、適切に維持していくために**長寿命化**する。**既存施設を有効に活用**することで不足する防災施設を充足する。

- ✓ 建物は耐用年数まで利用できるよう、必要な施設修繕を計画的に実施し、適切な建替えを行っていく。
- ✓ 不足する防災施設は、他の公共施設の余剰スペースや民間倉庫等を活用して確保する。

短期 （2018～2026 年度） → 最初の 9 年間

- ・ 建物は耐用年数まで利用できるよう、必要な施設修繕を計画的に実施し、適切な建替えを行っていく。[継続]
- ・ 不足する防災施設は、他の公共施設の余剰スペースや民間倉庫等を活用して確保する。[継続]

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

その他集会施設の実態・課題

■ 施設概要

市に 35 施設ある中規模集会施設は、町内会・自治会の集会施設で、市が建設費を補助し、地元地域住民によって組織された施設委員会が設置し（一部行政が設置した施設もある）、それぞれの委員会が定める規則等によって地域住民が所有及び管理運営しています。ただし、コミュニティセンター忠生、さかいがわ会館、鶴川さるびあ会館、さくらんぼホールの 4 施設は例外的に現在市が所有もしくは借用し、地域住民が管理運営しています。中規模集会施設の他にも、山崎団地集会所、小川農事センター、原町田六丁目若葉会館、の 3 施設は市で所有している集会施設です。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
忠生	◎	コミュニティセンター忠生	397	1987	忠生(2丁目)防災備蓄倉庫
忠生		さかいがわ会館	212	1999	
本町田 薬師池		山崎団地集会所 (やまざき会館)	95	2000	
鶴川		鶴川さるびあ会館	313	1993	
南		小川農事センター	173	1978	
町田中心	○	原町田六丁目若葉会館		1988	消防器具置場第1分団第2部
玉川学園 南大谷	○	さくらんぼホール		2002	玉川学園子どもクラブ

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ その他集会施設は市内さまざまな地域に配置している。
- 〔建物〕 ・ 小川農事センターの老朽化が進行している。
- 〔機能〕 ・ 各施設とも主に会議室や和室、集会室等を有している。
- ・ コミュニティセンター忠生は防災備蓄倉庫との複合施設であり、原町田六丁目若葉会館は消防器具置場との複合施設である。
- 〔利用〕 ・ 各施設とも地域の集会施設として地域住民に利用されている。
- 〔運営〕 ・ 各施設とも自治会等の地域住民により運営されている。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 中規模集会施設は地域コミュニティ活動の発展を目的に設置を支援しているが、設置を義務付けているものではない。その他の施設においても同様に設置の義務はない。

設置目的との整合性

- ・ 中規模集会施設をはじめとして、例外的に市が所有している状況である。

利用状況の妥当性

- ・ 施設は地域住民が運営している。

施設の代替性

- ・ 公共施設以外にも集会機能を有する場は多く存在している。

〔現状・課題のまとめ〕

対象施設は本来地域で所有する施設ですが、例外的に市で所有している施設です。既存施設の耐用年度を迎える契機に方向性の検討を地域に促していくことが課題です。

▷その他集会施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

民

地域の自主的な維持管理に移行することで、町内会・自治会が所有する集会施設と同様に、効果的・効率的な運営を目指す。

- ✓ 今後の施設の修繕や建替えの方向性について、地域で検討及び判断し、地域で維持管理していく。また、その実現のための支援の方法を検討する。

短期（2018～2026年度）→最初の9年間

- ・ 地域で施設の建替えを実施する場合を除き、建替えは行わない。〔継続〕

中期（2027～2036年度）

長期（2037～2055年度）

その他展示等施設の実態・課題

■ 施設概要

市では、写真専用の市民展示施設である町田市フォトサロン、その他に文化財である旧家を 3 施設、保有しています。旧家はそれぞれ国、都、町田市の指定文化財に指定されています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
本町田 薬師池		町田市フォトサロン	368	1975	
本町田 薬師池		旧荻野家住宅	125		
本町田 薬師池		旧永井家住宅	124		
北部の丘陵		村野常右衛門生家	254		

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 薬師池公園内に 3 施設が立地している。
- 〔建物〕 ・ フォトサロンは築 41 年を越している。旧家については保存改修工事を行っている。
- 〔機能〕 ・ フォトサロンは 2 つの展示室を保有している。
- 〔利用〕 ・ フォトサロンは、一般利用がない時には自主事業を行っている。年間の入館者数は、約 3 万 6 千人である。
- 〔運営〕 ・ フォトサロンのみ指定管理である。
- 〔コスト〕 ・ フォトサロンの運営費は 1,332 万円である。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律等による設置の義務はない。
- ・ 旧家は、文化財保護法に基づいて、保存を適切に行うこと、活用を図ること、国民の文化的向上に資することとされている。

設置目的との整合性

- ・ フォトサロンは、写真家・秋山庄太郎氏の写真館として開館したが、現在は、秋山氏の写真はなく、写真専用の貸し展示スペースとなっている。

利用状況の妥当性

- ・ フォトサロンは、一般利用がない時には自主事業を行っている。年間の入館者数は、約 3 万 6 千人である。

施設の代替性

- ・ フォトサロンは、貸し展示スペースがあれば他の施設でも代替可能。
- ・ 文化財については代替が不可能である。

〔現状・課題のまとめ〕

フォトサロンは、写真家・秋山庄太郎氏の写真館として開館しましたが、現在は、秋山氏の写真はなく、写真専用の貸し展示スペースとなっています。写真の展示は、貸し展示スペースがあれば他の施設でも代替が可能です。

旧家はそれぞれ、旧永井家住宅が国指定重要文化財、旧荻野家住宅が都指定有形文化財、村野常右衛門生家が町田市指定有形文化財に指定されており、代替が不可能な施設です。

▶その他展示等施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

活用

文化財は適切に維持保全していく一方、その他の展示施設は**市有財産の活用**により建物の総量を圧縮する。

- ✓ 建物は、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、転用・活用する。貸し展示スペースは他施設で代替し、建替えは行わない。
- ✓ 旧家は適切に維持保全していく。

短期 （2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ フォトサロンは、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、建物を転用・活用する。
- ・ 旧家は適切に維持保全していく。〔継続〕

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

その他教育施設の実態・課題

■ 施設概要

その他教育施設を 2 施設保有しています。そのうち旧忠生第四小の廃校舎を教育センターとして教育相談・適応指導教室の事業や教員研修などに利用しています。旧忠生第六小は活用方策の検討中ですが、暫定的に主に行政用の倉庫として利用されています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	
忠生	◎	教育センター	6,498	1972	教育センタークラブハウス 旧忠生第四小学校
本町田 薬師池		旧忠生第六小学校	6,916	1968	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 教育センターは比較的交通便利性の高い場所に立地している。
- 〔建物〕 ・ 教育センターは築 44 年が経過している。旧忠生第六小学校は耐震改修が未実施である。
- 〔機能〕 ・ 教育センターはクラブハウス、防災備蓄倉庫などを複合化している。
- 〔利用〕 ・ 一部の部屋は稼働率が高くないため、部屋同士の共用化が可能である。
- 〔運営〕 ・ 教育センターは市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 教育センター事業にかかる年間費用は 8 億円を超えている。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律による設置義務は無い。教育の質の維持や不登校児童の支援については行政関与の必要性が高い。

設置目的との整合性

- ・ 設置目的と整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 同じ機能の部屋が異なった名目で用意されていたり、稼働率が低く、必要以上に空間を使用している。

施設の代替性

- ・ 民間などによる代替性はないが、会議室などは他の公共施設での代替は可能。

〔現状・課題のまとめ〕

教育センターは教育の質の維持や不登校児童の支援を行う行政関与の必要性が高い施設ですが、廃校を1校そのまま利用しているため、用途に対して部屋が広すぎたり、稼働率の低い部屋がある等スペースの使い方が非効率になっています。また、研修室や会議室、科学センターなどは他の公共施設での代替が可能です。施設の大規模改修や建替えの際には必要な施設規模の検討が課題です。

旧忠生第六小学校は木曽山崎団地地区まちづくり構想において健康増進関連拠点としての活用が位置付けられており、民間活力による施設活用が課題となっています。一方で、耐震改修が未実施なため、全ての棟を活用しようとすると多額の費用が必要になります。

▷その他教育施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

複・多

PP

活用

市有財産として積極的な活用を図ることで、新たなサービス機能を提供する場や収入源とする。

- ✓ 教育センターは利用面積を圧縮し、空いたスペースを現在行っている主な事業と親和性のある他機能の受け皿として利用する。複合化する機能が無い場合は、大規模改修や建替えの際に施設規模を縮小する。
- ✓ 旧忠生第六小学校は民間活力による効果的・効率的な施設活用を検討する。

短期（2018～2026年度）→最初の9年間

- ・ 教育センターは大規模改修までに必要な機能とスペースを見直す。
- ・ 大規模改修の時期を捉えて、教育センター事業と親和性のある他機能を複合化する。複合化する機能が無い場合は、必要な棟のみ大規模改修をする。
- ・ 旧忠生第六小学校は民間活力による効果的・効率的な施設活用を検討する。

中期（2027～2036年度）

長期（2037～2055年度）

医療施設の実態・課題

■ 施設概要

市民病院は、447 床の病床数を保有する市内唯一の公的病院で、東京都二次救急指定病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターの指定を受け、地域から求められている二次救急、救急医療、周産期医療を提供しています。隣接する旧看護専門学校は、現在は改装して職員用の 24 時間保育施設及び委託先職員等の更衣室として活用しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
町田中心		市民病院	47,499	1999	
町田中心		旧町田市立看護専門学校	1,267	1973	院内保育施設

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 町田市中心部にあたる町田地区に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 旧町田市看護専門学校は築年数が経過している。
- 〔機能〕 ・ 市民病院は、447 床の病床数を保有する市内唯一の公的病院で、二次救急、救急医療、周産期医療を提供している。
 - ・ 旧看護専門学校は、現在は改装して職員用の 24 時間保育施設及び委託先職員等の更衣室として活用している。
- 〔利用〕 ・ 2015 年の入院患者延数は 124,391 人（1 日平均 339.9 人）、外来患者延数は 310,379 人（1 日平均 1277.3 人）、稼働病床数は 163,482 床（病床利用率 76.1%）であり、多くの利用がある。
- 〔運営〕 ・ 市の直営だが、地方公営企業法全部適用により、病院事業管理者の元、運営している。
- 〔コスト〕 ・ 市民病院 1 年間の運営費は約 142 億円であり、町田市の一般会計からは約 11 億円が繰入金として支出されている。（2015 年度）

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 設置における法的な義務付けはないが、採算性の面から民間医療機関では提供困難な医療を提供し、地域において必要な医療体制の確保が行政に求められる。

設置目的との整合性

- ・ 急性期医療を担う地域の中核病院として、二次医療、救急医療、高度医療、周産期医療、小児医療を地域に確保している点で整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 2015 年の入院患者延数は 124,391 人（1 日平均 339.9 人）、外来患者延数は 310,379 人（1 日平均 1277.3 人）、稼働病床数は 163,482 床（病床利用率 76.1%）であり、多くの利用がある。

施設の代替性

- ・ 市内に高度急性期病床を保有する民間病院はない。

〔現状・課題のまとめ〕

市民病院は採算性の面から民間医療機関では提供困難な医療を提供しています。特に高度急性期病床を保有する民間病院は市内になく、地域医療の確保が求められています。また、市民病院は地方公営企業法全部適用により、病院事業管理者の元、運営され、事業費の一部を市の一般会計から繰り入れています。良好な医療環境の維持のため、適切な財政運営による施設管理を行っていくことが課題です。

▶ 医療施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

長

PP

市民の生命を守るための施設として、効率的かつ適切に維持していく。

- ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。
- ✓ 建物の改修や建替えの際はPFI等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。

短期 （2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。〔継続〕
- ・ 建物の改修や建替えの際はPFI等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。〔継続〕

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

その他高齢者福祉施設の実態・課題

■ 施設概要

市では高齢者福祉施設として、デイサービスを 9 施設、在宅サービスセンターを 3 施設保有しています。また、高齢者の社会参加および能力活用並びに地域交流の促進を図る場としてわくわくプラザ、市主催の各種講座の開催をしている介護予防拠点及び福祉機器のリサイクル事業拠点として成瀬あおぞら会館があります。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
鶴川	○	デイサービス三輪		2001	三輪コミュニティセンター
町田中心		デイサービス森野	200	1998	
鶴川		デイサービス榛名坂	310	1994	
玉川学園 南大谷		デイサービス南大谷	201	1999	
成瀬		デイサービス高ヶ坂	586	2002	
相原		デイサービスあいはら	599	2005	
忠生	○	デイサービス忠生		2000	忠生市営住宅集会所棟
鶴川	○	デイサービス鶴川		1970	鶴川第四小学校
南	○	つくし野デイサービスセンター		1970	つくし野小学校
玉川学園 南大谷		玉川学園高齢者在宅サービスセンター	1,383	1999	
本町田 薬師池		本町田高齢者在宅サービスセンター	1,000	2000	
忠生	○	小山田高齢者在宅サービスセンター		1993	ふれあい桜館
成瀬		成瀬あおぞら会館	402	1996	
町田中心		わくわくプラザ町田	1,491	1993	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ デイサービスは市内の様々な地域にある。
- 〔建物〕 ・ 築 20 年前後の施設がほとんどである。
- 〔機能〕 ・ デイサービスは、高齢者の通所介護施設として必要な機能を保有している。成瀬あおぞら会館には貸し会議室はないが、わくわくプラザには貸し会議室がある。
- 〔利用〕 ・ デイサービス需要が増えている。民間のデイサービスは年々増えており、現在、市内に 128 ヶ所ある。わくわくプラザは貸し会議室としての需要が高い。
- 〔運営〕 ・ 指定管理等により管理運営を委託している。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ デイサービスや在宅サービスセンターは、老人福祉法に基づいて設置している。わくわくプラザは、高齢者の社

会参加・能力活用等を図る拠点として、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき設置された町田シルバー人材センターに管理運営委託している。それぞれの設置は、義務ではない。

設置目的との整合性

- ・ デイサービス、在宅サービスセンター、成瀬あおぞら会館は、当初の設置目的のとおり運用されている。
- ・ わくわくプラザは、当初の設置の目的の中でも貸し会議室としての需要が高い。

利用状況の妥当性

- ・ わくわくプラザの貸し会議室は利用件数が増えている。

施設の代替性

- ・ 民間のデイサービスは年々増えており、現在、市内に 128 ヶ所ある。
- ・ 貸し会議室は他の公共施設のスペース活用による代用も可能である。
- ・ 成瀬あおぞら会館で行っている介護予防事業は他の公共施設の空きスペースを利用することが可能である。

〔現状・課題〕

高齢者の増加や民間事業者の多様化により、行政に求められることも変化しています。わくわくプラザの集会機能利用や成瀬あおぞら会館で行っている介護予防事業は、特定の施設にとどまらず、集会施設など他の公共施設を活用しながら、より身近な場所で展開していくことが可能です。また、民間のデイサービスの数は年々増えており、現在、市内に 128 ヶ所あるため、代替性が高いといえます。

▷その他高齢者福祉施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

複・多

活用

民

民間によるサービス提供への移行や、複合化・多機能化、市有財産の活用等で建物の総量圧縮を図る。

- ✓ デイサービス、在宅サービスセンターは、賃貸借化、譲渡等を含めたあり方を検討する。
- ✓ わくわくプラザと成瀬あおぞら会館は、他の公共施設と複合化し単独機能での建替えは行わない。

取り組みの時期

短期 （2018～2026 年度） → 最初の 9 年間

- ・ デイサービス、在宅サービスセンターは賃貸借化、譲渡等を含めたあり方を検討する。
- ・ わくわくプラザと成瀬あおぞら会館は、他の公共施設と複合化し単独機能での建替えは行わない。

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

市営住宅の実態・課題

■ 施設概要

市では6施設514戸の市営住宅を保有しています（借上げ型高齢者住宅・シルバーピア2施設34戸を除く）。入居要件は、規定の所得基準を満たし、引き続き6ヶ月以上市内に居住していること及び、20歳以上の成年者及び既婚の未成年者で同居する親族がいることとなっています。募集は例年、あき家の発生状況に合わせて、3月上旬、6月上旬、9月上旬、12月上旬に実施しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
南		金森市営住宅	8,923	1995	
町田中心		森野市営住宅	4,038	1990	
本町田 薬師池		本町田市営住宅	2,084	1997	
忠生		木曽市営住宅	3,671	1992	
忠生	◎	忠生市営住宅	10,418	2000	デイサービス忠生
鶴川		真光寺市営住宅	7,516	2003	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 市営住宅は市内6か所に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 6施設とも築20年程度の施設である。
- 〔機能〕 ・ 市内には多くの都営住宅がある。
- 〔利用〕 ・ 市営住宅の入居率は高いが、全体の40%が高齢者世帯である。
- 〔運営〕 ・ 維持管理運営は管理代行事業者が実施。
- 〔コスト〕 ・ 市営住宅1戸当たり費用は約64万円である。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 公営住宅法に基づき、地方公共団体は住宅に困窮する低額所得者に対し公営住宅を提供しなければならない。

設置目的との整合性

- ・ 入居要件があり、設置目的と整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 入居希望者は多く、特に単身者向けの部屋は応募数が大きく定員を上回っている。

施設の代替性

- ・ 市内には都営住宅や公社供給住宅が多くある。

〔現状・課題のまとめ〕

公営住宅法に基づき整備している市営住宅は適切な確保が求められますが、人口減少や高齢化などの社会状況の変化に適応した住宅供給に見直していくことが課題です。

▶市営住宅の今後の方向性

■ 今後の方向性

L

適正かつ効率的な維持管理を行い、建物の大規模改修や建替えの際は、社会状況に合わせた更新をする。

- ✓ 建物の大規模改修や建替えの際は人口や低額所得者数の動向に合わせて施設を適正な規模に縮小する。

短期 （2018～2026 年度） →最初の 9 年間

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

- ・ 建物の大規模改修や建替えの際は、人口や低額所得者数の動向に合わせて、施設を適正な規模に縮小する。

供給処理施設の実態・課題

■ 施設概要

供給処理施設は、ごみ処理施設と資源化施設、ごみの収集に関する施設等に分けられます。町田市内にはごみ処理施設である焼却施設と不燃・粗大ごみ処理施設が 1 か所、資源化に関する施設が 4 か所、ごみの収集に関する施設が 3 か所、排水浄化施設、し尿投入施設がそれぞれ 1 か所あります。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
忠生		町田リサイクル文化センター	24,448	1982	
忠生		ビン・カン選別施設（資源化施設）	499	1979	
忠生		リサイクル広場まちだ	243	1997	
北部の丘陵		町田市剪定枝資源化センター	2,948	2007	
南		リレーセンターみなみ	2,374	1984	
南		南収集事務所	479	1998	
忠生		排水浄化センター	574	1977	
忠生		境川クリーンセンター	1,201	1990	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 町田リサイクル文化センター周辺に施設が集中している。
- 〔建物〕 ・ 町田リサイクル文化センターは築 36 年以上が経過しており老朽化により建替えを進めている。他の施設も同様に老朽化が進んでいる。
- 〔機能〕 ・ 一般廃棄物の焼却、不燃・粗大ごみ処理をするリサイクル文化センター、ビン・カン等を選別・貯留しているビン・カン選別施設、剪定枝をたい肥（土壌改良材）化する町田市剪定枝資源化センターなどがある。そのほか、収集機能、排水浄化機能、し尿投入機能を有した施設がある。
- 〔利用〕 ・ 市民が生活するうえで必要不可欠な施設であり、2015 年度の収集・持込量は、ごみ：97,553 t 資源：16,763 t し尿：2,077kL 浄化槽汚泥：7,526kL であった。
- 〔運営〕 ・ 直営が施設（うち賃貸借している施設が 1 施設）、委託が 5 施設ある。
・ 町田リサイクル文化センターは、建替え後、施設は市が所有し、管理・運営を民間が行う。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、市町村は一般廃棄物処理計画を策定し、区域内における一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないうちに収集、運搬、処分しなければならないと定められており、サービス・機能の提供が義務付けられている。

設置目的との整合性

- ・ 当初より供給処理施設として運営しており整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 建替え後の町田リサイクル文化センターは、「町田市一般廃棄物資源化基本計画」で掲げたごみとして処理する量を 2009 年度比で 40%削減するという方針に基づき、施設規模を決定したため、現在よりも規模を縮小して整備する。
- ・ 新たに分散整備を予定している資源ごみ処理施設については、現在行っているビン・カン処理に加え、容器包装リサイクル法に基づき、容器包装プラスチックの処理施設を整備する。2 ヶ所に分散整備ことで、施設相互の補完機能も有している。
- ・ 境川クリーンセンターのし尿投入施設は、今後のし尿処理事業に見合った施設として敷地内に移転改修を進めている。
- ・ 境川クリーンセンターの旧管理棟については、周辺住民の理解を得ながら転用を行っている。

施設の代替性

- ・ 代替できる民間施設はないが、委託などによる民間事業者の運営は可能である。

〔現状・課題のまとめ〕

市内で発生する一般廃棄物の処理にあたっては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、2011 年に策定された「一般廃棄物資源化基本計画」を踏まえ、減量施策及び施設整備計画を進めています。

現在、町田リサイクル文化センターは、ごみとして処理する量を削減するという方針で策定した「町田市資源循環型施設整備基本計画」のとおり、現在よりも規模を縮小して整備を進めています。また、資源ごみ処理施設は、2016 年 4 月から既存施設であるリレーセンターみなみに設備を追加し、今後新たな施設を 2 カ所に分散整備予定です。

整備・運営については、新たなごみ処理施設整備にあたり実施した「町田市ごみの資源化施設における整備・運営の事業方式検討」の結果を受けて、町田リサイクル文化センターは DBO 方式（公設民営）、資源ごみ処理施設の整備は公設公営方式で整備することを選定しています。今後は、市民の安全・安心を確保しつつ効率的に施設整備を推進していくことが課題です。

▶ 供給処理施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

L

P P

生活に必要な施設として、効率的かつ適切に維持していく。

- ✓ 町田リサイクル文化センターの建替は、DBO 方式（公設民営）により、民間事業者のノウハウを活用し、運営費用の軽減等や更新費用の低減を図る。
- ✓ 資源ごみ処理施設の整備は、公設公営により用地の取得や関連事業との調整を行い 2 地区（上山田地区、相原地区）で施工する。
- ✓ プラントや建物の維持管理を適切に行い、長期的な観点でコストダウンを図る。

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 町田リサイクル文化センターは DBO 方式（公設民営）で建替える。
- ・ 新たに分散整備する資源ごみ処理施設は、公設公営で整備する。
- ・ 剪定枝資源化センターは、2022 年で借地期間が切れることから今後のあり方について検討する。
- ・ 南収集事務所は、2022 年で借地期間が切れることから今後のあり方について検討する。
- ・ 排水浄化センターのプラントの更新の際には、処理量に見合った大きさの施設に建替える。
- ・ 境川クリーンセンターのし尿処理施設は、今後のし尿処理事業に見合った施設として移転改修を進める。
- ・ 境川クリーンセンターの旧管理棟は、多機能の受け皿として活用する。単独機能での建替えを行わない。

中期（2027～2036 年度）

- ・ 町田リサイクル文化センターについては、運営事業終了時に向けた調整及び方向性の検討を開始する。
- ・ 施設の長寿命化のための施設保全計画を策定し、プラントや建物の維持管理を適切に行い、長期的な観点でコストダウンを図る。[継続]

長期（2037～2055 年度）

下水道施設の実態・課題

■ 施設概要

町田市下水道は、地形条件等により「流域下水道」ではなく単独で整備・維持管理する「単独下水道」であるため 3 つの下水道処理施設を保有しています。そのうち 2 施設はクリーンセンター（下水処理場）です。1 つはポンプ場で汚水の中継するための施設です。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積（㎡）	築年	複合施設等
成瀬		成瀬クリーンセンター	46,906	1975	
鶴川		鶴見川クリーンセンター	28,155	1989	
鶴川		鶴川ポンプ場	846	1989	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ クリーンセンターを市内で 2 か所設置している。
- 〔建物〕 ・ 成瀬クリーンセンターの耐震工事を順次進めている。
- 〔機能〕 ・ 南部で発生する汚水は成瀬クリーンセンター、北部の汚水は鶴見川クリーンセンターで処理をしている。
- 〔利用〕 ・ 市内人口の 98.5%（人口普及率）が下水道を利用できる。
- 〔運営〕 ・ 業務の多くを民間委託している。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 下水道法にもとづき、下水処理場やポンプ場等関連施設を整備する必要性がある。

設置目的との整合性

- ・ 市は下水道事業を実施しており、処理場等の設置は目的と整合する。

利用状況の妥当性

- ・ 下水道環境は良好に維持されてきたが、施設の耐震対策、老朽化対策が必要である。

施設の代替性

- ・ 市が単独で下水道事業を行っている限り必要となる施設であり、代替性が無い。

〔現状・課題〕

下水道事業を安定的に実施するため、施設を良好な状態で維持する必要があり、適切な耐震対策や老朽化対策が必要です。運営についてもアセットマネジメント（施設資産のマネジメント・資金のマネジメント・人材のマネジメント）により更に効率的で効果的なものにしていくことが課題です。また、2020 年に公営企業会計の財務適用を予定しており、これまで以上に経営状況や資産状況が明確化されます。

▶ 下水道施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

長

L

P P

人々の暮らしや衛生環境の確保に直結する施設として、効率的かつ適切に維持していく。

- ✓ 資金を計画的に確保し、施設の維持のために必要な改修や修繕を行っていく。
- ✓ 運営のコスト削減に向けて、アセットマネジメントを着実に実行する。
- ✓ 建物の大規模な改修や建替えの際は P F I 等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。

短期 （2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 資金を計画的に確保し、施設の維持のために必要な改修や修繕を行っていく。〔継続〕
- ・ 運営のコスト削減に向けて、アセットマネジメントを着実に実行する。〔継続〕

中期 （2027～2036 年度）

長期 （2037～2055 年度）

駐車場・自転車等駐車場の実態・課題

■ 施設概要

市には市営の駐車場と自転車等駐車場との複合施設が 1 施設、自転車等駐車場が 9 施設あります。

〔施設一覧〕

駅	複合	施設名	面積	築年	複合施設等
町田駅	○	町田ターミナル自転車駐車場		1983	町田ターミナル プラザ
町田駅		原町田一丁目駐車場・原町 田一丁目自転車駐車場	6,989	1979	
町田駅		原町田三丁目自転車駐車場	464	1989	
町田駅		原町田四丁目自転車駐車場	1,050	2002	
成瀬駅		成瀬駅北口自転車駐車場	354	1994	
成瀬駅	○	なるせ駅前市民センター 地下自転車駐車場	-	-	なるせ駅前市 民センター
鶴川駅		鶴川駅東側バイク駐車場	11	2010	
玉川学園前駅		玉川学園二丁目自転車駐車 場	286	1992	
すずかけ台駅		すずかけ台駅前自転車駐車場	120	1988	
相原駅		相原駅東口自転車駐車場	1,066	1993	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ すべての施設が駅前にあり、うち町田駅周辺に 4 施設がある。
- 〔建物〕 ・ 老朽化してきた建物の維持管理および更新が課題となっている。
- 〔機能〕 ・ 自転車等駐車場の内訳は、自転車専用の駐車場が 4 施設、バイク専用の駐車場が 1 施設、自転車及びバイク両用の駐車場が 5 施設である。自転車専用の駐車場のうち 1 施設は自動車の駐車場と複合している。
- 〔利用〕 ・ 駐車場は 1998 年をピークに利用料金収入が減少している。自転車等駐車場は、一時利用者が増加している。
- 〔運営〕 ・ すべて指定管理となっている。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律等による設置義務はない。
- ・ 原町田一丁目駐車場については、都市計画施設に位置付けられている。

- ・ 自転車等駐車場については、「自転車の安全利用の促進及び自転車塗油の駐車場対策の総合的推進に関する法律」で、自転車等の需要の著しい地域には一般公共の用に供される自転車等駐車場の設置、大量の駐車需要を生じさせる施設（官公署、学校、図書館など）の設置者は、その施設の利用のために必要な自転車等駐車場の設置に努めなければならないとされている。

設置目的との整合性

- ・ 当初の設置目的のとおり運営されている。

利用状況の妥当性

- ・ 駐車場は 1998 年をピークに利用料金収入が減少している。
- ・ 自転車等駐車場は、一時利用者が増加している。

施設の代替性

- ・ 民間の施設がある。駐車場については、建設当時に比べて周りに民間施設が増えている。

〔現状・課題のまとめ〕

原町田一丁目駐車場については、都市計画施設に位置づけられていますが、1998 年をピークに利用台数および利用料金収入が減っていること、民間の駐車場が周辺に増加していることから、運営の見直しが課題です。市内に 10 ヶ所ある自転車等駐車場は、利用が増加しています。

▶ 駐車場・自転車等駐車場施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

L

P P

さらなる民間活力の導入により効率的かつ需要に見合ったサービス提供を行う。施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持管理まで含めた民間活用を検討する。

- ✓ 運営費のコストダウン及び収益増加を図る。
- ✓ 施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持・管理まで含めた民間活用を検討する。
- ✓ 市で建替えをする際には、需要に見合った延床面積とする。

短期（2018～2026 年度）→最初の 9 年間

- ・ 運営費のコストダウン及び収益増加を図る。〔継続〕
- ・ 施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持管理まで含めた民間活用を検討する。〔継続〕
- ・ 市で建替えをする際には、需要に見合った延床面積とする。〔継続〕